

MUSEUM ちば

千葉県博物館協会研究紀要

目 次

【特集】博物館と評価	
はじめに	
●博物館は市民と共に歩みだしたか?!	
特定非営利活動法人千葉まちづくりサポートセンター	
栗原 裕治 ……………	2
事例報告	
●アンケートから知るお客様の満足度	
八千代市立郷土博物館	佐藤 誠 …………… 13
●印旛村における政策評価と歴史民俗資料館事業	
印旛村歴史民俗資料館	能勢 幸枝 …………… 17
●各館で実施している来館者アンケート調査から	
千葉県立中央博物館	林 浩二 …………… 19
千葉県博物館協会加盟館園一覧 ……………	45

第37号

2006年3月

千葉県博物館協会

はじめに

『MUSEUMちば』では、今年度「博物館と評価」というメインテーマを掲げ、博物館評価の取り組みについて特集します。

加盟館園で行われている博物館評価の実際の例を、事例報告や各館から提供していただいた来館者アンケートの書式をもとに紹介します。

また、NPOの立場から千葉まちづくりサポートセンターの栗原裕治さんに、博物館評価に関する論考をお寄せいただきました。

博物館評価の必要性が高まっていることもあり、加盟各館の今後の運営に少しでも参考になればと思います。

2006年3月

平成17年度調査研究委員会

理事 鈴木 洋子（流山市立博物館）
吉田 政一（鎌ヶ谷市郷土資料館）

委員 後野 真弥（鎌ヶ谷市郷土資料館）
斎木 健一（千葉県立中央博物館）
酒井 規子（白井市郷土資料館）
遠山 仁恵（流山市立博物館）

博物館は市民と共に歩みだしたか？!

特定非営利活動法人千葉まちづくりサポートセンター

副代表 栗原裕治

はじめに

博物館の展示または事業の評価に関することを市民の視点で執筆して欲しい、と依頼されてからだいぶ時間が経過してしまった。

思い起こすと、今から約3年半前に県立博物館の統廃合等の見直し問題に市民の立場で関わり、NPOの仲間と一緒にシンポジウムを開催したり県に提言書を提出したりしていた。

そうした活動の中で博物館に関するさまざまな見方、あるいは期待や要望というものに触れるとともに、博物館には、利用者である市民、設置者である行政、更には博物館職員の方が納得する評価尺度が存在していないことを知った。博物館の評価は、その時代の中で常に見直される必要があるが、きっちりと評価が行われ、その情報が公開され、評価結果が有効に活用されることが、博物館の発展のための大きな武器になるものと考えている。

千葉県の博物館の公式の評価尺度については、現在も検討が行われており、年度内には一定の結論が出るものと思われる。

博物館の展示や事業について市民の意見や要望は、3年前の中央博物館でのシンポジウム「これからの博物館を考える」を中心にまとめた千葉県立博物館構想に関する県民提言報告書(2003年3月完成)に詳しく述べられており、博物館のあり方を含めて博物館の展示や事業の評価尺度づくりにつながる検討も行われている。この原稿が活字となる前(2006年1月14日)に、われわれは3年前のシンポジウムで出された意見や期待について検証するシンポジウム「博物館は市民と共に歩みだしたか?!」を中央博物館で開催する。

この原稿のタイトルをシンポジウムのテーマと同じにしたのは、博物館の展示や事業の評価について考える原点となった3年前を振り返り、現時点での多少の考察を加えて紹介することに大きな意味があると考えたからであり、また、そうしたわれわれの活動が現在も継続していることを知ってもらいたいと考えたためである。

1 県民が提出した県立博物館の統廃合に関する要望書

2002年6月12日の毎日新聞(千葉県版)に掲載された「県立博物館を統廃合へ」という記事がその後の県民提言のきっかけになった。それは、千葉県が財政再建団体への転落の危機を回避するために、行財政改革の一環として分館を含めて11館ある県立博物館の統廃合、市町村への移管、民間委託、入場料の有料化などを検討課題としているという記事であった(千葉県の公式発表は2002年9月11日)。

同年7月29日に博物館に関心を持つ市民団体及び個人は、堂本知事に「県立博物館の統廃合計画に反対し博物館機能のいっそうの充実を求める要望書」を提出した。

賛同した市民団体や個人は、必ずしもそれまでの博物館の事業や活動に満足していたわけではない。「地域文化創造」「生涯学習」「環境再生」が重要な時代の中核拠点として新しい価値を生み出して欲しいという博物館に対する期待はあったが、それは具体的な言葉で表現されてこなかった。また、2001年度の県立博物館・美術館(11館)の総入場者数169万人が示すように、一般の千葉県民にとって博物館は必ずしも身近な施設とはいえず、博

博物館事業はあたりまえの行政サービスの一つにすぎなかった。博物館に特別な関心を持つ市民団体や個人にしても博物館の運営の奥深くまで関心があったわけではない。

千葉県は地域の特性を生かした専門性を持つ博物館の設置を奨励する「県立博物館ネットワーク構想」を1969年に制定し、県立美術館を含め県内11ヶ所と全国最多の博物館施設をつくってきた。それが一転して「県立博物館を統廃合へ」ということになった。

行政主導で博物館構想を立案し、行政主導で事業を展開し、行政主導で統廃合までも決められてしまう。県行政にすれば、いろいろなアンケート等によって県民の意見も反映させ、外部の専門家にも議論してもらっており、県行政だけで政策や事業を決定しているわけではないと言うかもしれない。しかし、県民から見れば、県行政に対して意見を述べる専門家も博物館の担当部局の身内のように映る。プロセスがよくわからないままに検討結果だけを突きつけられるからだ。今回の博物館の見直し計画も、全て行政主導で決定してしまうこれまでの政策形成の手法と何も変わっていない。県民は政策形成の過程で相変わらず何の意見もいえない。こんなことを続けていてよいのか、という気持ちが知事への要望書提出の行動となった。

なぜなら、千葉県はほぼ同時期の2002年6月2日、中長期的な視点で県政運営の基本方針に「千葉主権の確立」を掲げ、それに向けての「千葉からの『変革と創造』」を発表していた。2002年7月5日の「ちば県民だより」には、千葉主権の具体的な姿として以下の記述がある。

- ①一人ひとりが千葉県民として誇りと自信を持てるようにする。
- ②一人ひとりがその人らしく生きることができる経済的にも文化的にも自立した県にしていく。
- ③これまでの中央集権型から脱却し、地方が

固有の歴史と文化に根ざして、主体的で個性的な県政運営を行い、新しい分権型社会を構築していく。

- ④生活、産業、環境などあらゆる面における「持続可能」という視点を持つ。
- ⑤豊かな自然、個性的な歴史や文化、多様で可能性のある産業など貴重な財産の最大限の活用を目指す。
- ⑥「21世紀型の千葉デモクラシー」=徹底した情報公開と県民参加のもとで、県民の主体的な政策提案型の県政運営を目指す。

また、「変革と創造」の説明では、以下の施策が記されている。

- ①一人ひとりの個性を大事にする教育、生涯にわたる人間形成と学習機会の提供。
- ②多様な生物、生態系の保全と再生。開発と保全の対立の構図から自然との共生の実現。
- ③前例踏襲型の画一的な行財政運営から施策精選型の県政への転換。
- ④政策形成過程における県民参加の仕組みづくり。

堂本知事に要望書を提出した背景には、県政運営に関する千葉県が発表した新たな方針の存在があった。

以下がその要望書に記述された要望の概要である。

- ①県立博物館の統廃合計画は、「県立博物館ネットワーク事業」構想や自然誌博物館の社会的役割、県政運営の基本的方向を示した「変革と創造の県づくり」を無視するものであり、中止を求める。
- ②フィールド・ミュージアム構想の充実に向けて、「山の博物館」の実現と共に、「自然誌科学研究センター」構想策定にとりかかるとを求める。
- ③徹底した情報公開と県民参加のもとで、県民の主体的な政策提言型の県政運営という「21世紀型の千葉デモクラシー」を実現する立場から、

- i) 博物館のあるべき姿については、現場の職員、県民や関係団体との開かれた対話が不可欠であり、この点に関する見解の表明を求める。
- ii) 統廃合を検討する根拠となった報告書、議事録など一切の文書の開示を求める。

これに対して、博物館を担当する教育庁から、以下の回答があった。

- ①本県では、財政再建団体への転落を回避しながら「千葉主権」の確立に向けた行財政システムの行動計画の策定を進めており、博物館の見直しも行う。
- ②近年、生涯学習社会の本格化、情報システムの高度化などにより、県民のライフスタイルは多様化し、博物館の役割が大きく変化してきていることから、今後は県と市町村の役割分担を更に明確にした上で、「千葉からの『変革と創造』」の観点に立ち、フィールド・ミュージアム機能も含めて、幅広く県内の市町村立や私立博物館を含めた「県内博物館ネットワーク」の整備充実を図る必要があると考える。
- ③博物館の見直しに当たっては、県民の意見も十分に参考にしながら、県立博物館のあるべき姿の具体的検討を進める。

2 県民有志による学習成果

要望書提出と並行して、博物館の現在や今後の政策に関心を持つ有志が集まり、「21世紀型の千葉デモクラシー」を実現する立場から、県立博物館のこれまでの政策や現状の業務等についての学習が始まった。

その学習をとおして博物館の状況や課題もようやくおぼろげに見えてきた。

1) 共感できる千葉県の「博物館ネットワーク構想」

県立博物館は、創成期に作成された「県立博物館ネットワーク構想」に基づき整備拡充

が図られてきたが、この構想そのものは非常に質の高い千葉県民が誇れる政策として評価できるものであった。

千葉県は「新世紀ちば5ヵ年計画（2000年11月）」の中で、以下のように述べている。

＜自由時間の増大やライフスタイルの多様化等により、豊かさゆとりを感じられる生活を求めて、芸術・文化への関心が高まっています。また、人々や地域間の交流がこれまで以上に活発になる中で、芸術・文化に彩られた魅力ある地域づくりの取り組みも進められてきています。

そのような中で、県立博物館においては、生涯学習の中核施設として、芸術・文化活動の情報発信の最前線としての整備拡充を図っていく必要があります。

そこで、県立博物館が、過去、現在、未来における博物館の役割を見通した上で、県民に心から親しまれるとともに、地域振興にも重要な役割を果たすことができる施設整備を進めます。

また、県立博物館情報システムを充実させ、収蔵資料等のデータベース化を進め、県民への積極的な情報提供を図ります。＞

また、県立中央博物館初代館長の故沼田眞氏は、1999年に発刊の「中央博だよりNo.41」の中で以下のように記述していた。

＜私の基本方針としては、この博物館を設立するに当たり、一般の博物館と同様に資料を収集し、目で見、場合によっては耳で聞き、手で触ってみるなど、人間の五感と接触することのできる景相学（Landscape Science）的博物館を目指した。

また、本館の隣接地に（Ecology Park）という、房総半島の代表的な森林、草原、湿原、海岸などを「環境保全」（In Site Conservation）の考えに基づいて配置し、遊歩道（ネーチャートレイル）を通じて房総半島の一周を果たせるといった機能を持たせた野外博物館（Field Museum）を開設した。さらに舟田池

に沿って野外観察舎を設置した。

本館の博物館活動はEx-site Museum（施設の博物館）の手法をとっているが、これに対して開館10周年を迎えた今年（平成11年）3月、勝浦市に「中央博物館」の分館として開館した「海の博物館」はIn-site Museum（現地の博物館）の手法をとった。この分館の完成により「中央博物館」には、「海の博物館」（現地の博物館）-「生態園」（セミ現地博物館）-「本館」（施設の博物館）という系列が成り立った。《中略》さらにこの他に現在考えていることは、千葉県自然保護基礎研究所の設立である。行政の部門に自然保護課はあるが、ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ、イノブタ、キョンの数の増大などを考えると、科学的研究の積み重ねに基づく対応が今後必要である。そのために、この研究所を設立し、中央博物館の研究機能を更に強化したいと考えている。>

こうした県行政や博物館の方針や考え方は、われわれにとって共感できるものであり、実現に向けた県行政-市町村行政-博物館-市民団体（NPO）-県民の連携・協働の必要性を強く意識した。

2) 博物館の見直しは全国的な課題

財政的な問題を含めて、博物館は過渡期にあることもわかってきた。

国立教育政策研究所が作成した「博物館に関する基礎資料（平成13年度版）」によると、1998年度の日本全国の博物館数は1,030館（登録と相当博物館の合計）、来館者数は103,273千人と、国民一人が1年間にほぼ1回来館した計算になる。しかし、この数字も1993年度に来館者220,006千人をピークに半減していた。

また、(財)日本博物館協会は2000年12月に、新しい博物館の理念を「21世紀に相応しい博物館とは、『対話と連携』を運営の基礎に据え、市民とともに新しい価値を創造する

生涯学習社会における新時代の博物館である」とする報告書（文部省委嘱事業「博物館の望ましいあり方」調査研究会報告）を発表していた。

この報告書は、生涯学習社会の新しい教育システムの中で、博物館は従来の学校中心の教育活動と比較にならないほどの重要な役割を分担する必要があるとしながら、そうした急速に増大する市民需要に国内の博物館が十分に対応できない要因として、従来の博物館活動が収蔵庫管理と展示に重点が置かれ、博物館独自の教育活動の蓄積に乏しく、また活動を推進する博物館資源（人材、資材、予算、情報）も極めて貧困な状況にあることを指摘していた。そして、この増大する市民需要と貧困な博物館資源という運営のジレンマを埋める対応策として「対話と連携」による博物館運営が提唱されていた。

「対話の原則」のポイントとして、i) 博物館活動の全行程を通して対話する、ii) 利用者、潜在利用者の全ての人々と対話する、iii) 年齢、性別、学歴、国籍、障害の有無を越えて対話する、iv) 時間と空間を越えて対話する、が挙げられていた。

また、「連携の原則」として、i) 館種別、設置者別、地域別を越えて連携する、ii) 学校、大学、教育研究所等と連携する、iii) 家庭、行政、民間団体、企業等地域社会と連携する、iv) アジア、太平洋地域及び世界の博物館・博物館関係機関と連携する、とそのポイントが指摘されていた。

あらゆる面に開かれた博物館というものが一つの潮流として新たに博物館像になろうとしていた。つまり博物館の見直しは、千葉県固有の課題ではなく全国的な課題であり、千葉県の財政再建の課題とは切り離して検討する必要があると感じた。

1951年に制定された博物館法は、第2条で「『博物館』とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育

成を含む)し展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関…」と、博物館を規定していた。

こうした博物館法等を踏まえ、われわれは学習において博物館の現状を以下のように考察した。

- ①博物館の数が増え、個々の館が一般市民にとって関心の高い収蔵品を数多く展示することは困難になっている。交通機関や情報システムの発展は、市民の行動を必ずしも分散しない。むしろ、関心の高い収蔵物に向けて集中をもたらし、足元の施設の関心は薄れる。地域の博物館に足を運ぶよりも、本物を見るために遠くの現地にまで足を運ぶ。もはや単純な見世物小屋的な常設展示や企画展示で人を集めるのは難しい。資金を投ずれば注目を集める企画展示も可能かもしれないが、一時的に注目されるだけであり、博物館の将来にはつながらない。特色や企画力が重要である。
- ②これまでの博物館は、教養やレクリエーション等のための展示を中心に運営されてきたが、教養やレクリエーションのための提供されるサービスは博物館以外にも増えているから、今後の価値観やライフスタイルの多様化に的確に対応できなければ、博物館そのものが博物的なハコモノになりかねない。現在の社会的な背景を考えれば、これからは地域の課題に対応した調査研究や人材育成が博物館の役割として重要になる。県立博物館は、全国の来館者数の減少傾向から見れば健闘しているが、それは調査研究や人材育成に貢献しているからともいえる。しかし、まだまだこの分野の活動は不足しており、県民ニーズに十分に届いておらず、博物館事業の全ての行程で開かれた全館的な取り組みになっていない。

- ③博物館の仕組みは、現場にほとんど権限がないのが問題で、これでは地域の課題に迅速に対応することが難しい。相変わらず一方的に限られたサービスを提供する機関であり、魅力が乏しい。もっと現場での対話が必要だが、そうした自立・自律の活動が博物館の評価につながっていない。博物館やそれを所管する行政部門で政策を検討・立案するのではなく、政策形成の段階からNPOや利用者の参加を検討する必要がある。

3) 博物館の価値の洗い出しと評価

博物館の現状を改善し、将来につなげていくには、博物館をしっかりと評価する必要があるが、われわれの学習の過程で、博物館の既成の評価尺度というものがはっきり見えてこなかった。唯一つ言えることは、来館者数と予算との関係において博物館が安易に評価される傾向があるということであった。

公共機関である博物館は、無駄を省く努力は必要だが、金を儲ける施設ではない。千葉県県の県立博物館の年間予算が約36億円で来館者が170万人とすれば、来館者一人当たり2,000円強、県民一人当たり600円の価値を生み出しているかどうかの問題なのであり、単純に来館者数が増えた減ったを博物館評価尺度の中心にすることはできないはずである。年間予算約36億円の中には、県が負担している社会保障費、職員の退職金、設備の減価償却費などは含まれていないので、われわれは、実際には来館者一人当たり3,000円とか、県民一人当たり1,000円とかの価値を生み出しているかが重要と考えた。

全ての県民に愛され、利用される施設というのも一つの理想ではあるが、価値観やライフスタイルが多様化し、きめ細かなサービスが求められている現代社会において、全ての県民のニーズに応える事業などは、財政事情を考えても現実的でない。博物館の役割や機

能・能力を理解する来館者や利用者を増やし、それらに必要なサービスを提供していくことが博物館のこれからの使命であり、必要な活動と考えた。それにはわかりやすく魅力的な情報の発信が必要になる。

また、公平・平等というのは公共にとって重要であるが、全てに公平・平等にサービスを提供することよりも、現実には博物館にサービスの提供を求めるものに対して公平に開かれ、平等に機会を用意できることを博物館は求められている。そのような体制がつけられ、機能していることが博物館の評価につながる必要があると考えた。

このような視点に立てば、たとえ来館者が100万人を切ったとしても、それぞれの来館者が来館者一人当たりの予算以上の価値や満足を得ることができれば、県立博物館の存在には大きな意味がある。

また、個々の博物館が行う調査研究が新しい価値を生み出し、その成果を地域や県民に還元できれば、それはその博物館の価値であり、更に、博物館の利用者がそこで得た知見を地域や県民のために活用できれば、価値の連鎖によってその博物館の評価は一層高まると考えられる。

そのために博物館の評価は、博物館の新たな役割や価値の洗い出しから出発する必要がある。そして、「21世紀型の千葉デモクラシー」を実現する立場から、まず、博物館の管理・運営者、その協力者、利用者の対話が重要と考えた。

3 シンポジウム「これからの博物館を考える」の開催

2002年11月9日、千葉県自然保護連合とNPO法人千葉まちづくりサポートセンターの主催で、千葉県立中央博物館において、シンポジウム「博物館構想に関する県民提言～これからの博物館を考える」が開催された。千葉県教育庁や千葉県立中央博物館の協力を得

て、約170名がこのシンポジウムに参加した。

シンポジウムの開催前に事前アンケートを実施したところ、500の回答が集まった。また、県立中央博物館、同分館、県立美術館を除く8つの県立博物館から回答者の個人的な見解としてアンケート回答を得た。

1) アンケート回答結果

①千葉県行政や県立博物館に対する期待や要望については、大きく3つの意見があった。

i) 博物館をもっと充実して欲しい

自然系の博物館を充実して欲しい（三番瀬博物館の設置も）。／自然保護・環境保全・生態系保全の拠点になって欲しい。／生物多様性・自然誌のデータベースとなって欲しい。／環境・開発面でのチェック機関になって欲しい（行政、議会、市民、業者等への助言）。／博物館の予算は減らさずに充実すべきである。

ii) 博物館のサービスの質を高めて欲しい

さまざまな面でマネジメントの質を高める必要がある。／学校との連携を強化して欲しい。／Webサイト等で情報を得られるようにして欲しい。／もっとPRが必要。／展示に魅力がない、標本が汚い、展示は何らかの体験を伴うものにして欲しい。

iii) 静的な博物館から脱却して欲しい

センスがよく、魅力的で、驚きのある、親しみやすい博物館になり、参加型の活動を増やして欲しい。／積極的に活動する博物館になって欲しい。／調査研究に力を入れ、最新の成果を展示等に反映し、現在の課題に迅速に対応して欲しい。／まちづくりの拠点になって、地域と密着した活動をして欲しい。／地域の文化・歴史を残すことに影響力を発揮して欲しい（地域全体をフィールド・ミュージアムに）。

②行財政改革の一環としての博物館の見直しについては、大まかに反対と取れる意見であっても、自然や文化への認識を高める上で博物館の使命・役割の重要性を説明する記述が多く見られ、その前提ゆえに博物館のサービスの向上のためには何らかの取り組みが必要との意見がほとんどで、賛成と反対の大きな対立は認められなかった。また、反対あるいは賛成を表明するための現状の博物館に対する具体的な評価の記述はなく、現状への不満と期待が入り混じった記述が多かった。

- i) 「博物館の統廃合」については、反対が賛成の2倍に達した。賛成の回答には、統廃合を契機に更に機能を向上させて欲しいとのコメントが付されているものが目立った。
- ii) 「市町村への移管」については、ほとんどが反対であり、市町村の負担が大きいと指摘があった。
- iii) 「民間委託」については賛成と反対が拮抗していたが、回答者が念頭に置く民間がNPOであったり営利企業であったり、また、委託にしても回答者の考える委託の範囲や想定内容にばらつきがあり、そのための意見の違いがあるように思われる。
- iv) 「入館料の有料化」については、有料化やむなしの回答が有料化反対の約2倍あった。ただし、小中学生等への配慮が必要という意見が多かった。

③博物館とNPO、ボランティア団体、県民との協働については、回答者のNPO等についての理解度にばらつきがあり、また、市民団体の活動領域、得意分野、能力レベルなども多岐にわたること、更には、念頭に置く博物館の事業もまちまちで、多様な意見が出された。その中で比較的多かった意見は次のものであった。

- i) 博物館は、地域の活動、学習の場、N

PO-NPOも含めネットワーク化する情報拠点及び交流の場になる。

- ii) 環境教育（体験学習、野外セミナー等）でNPOと博物館が協働する。

また、上記の2項目以外の比較的まとまった意見としては、NPOを主体として捉えた意見と博物館を主体として捉えた以下の意見があった。

- iii) NPOを主体として捉えた意見として、情報の収集や配布にNPOが関わる。／博物館が行うあらゆる活動にNPOやボランティアが参加する（ただし、運営は除く）。／博物館の運営をNPO等が中心になって行う。／NPOの実力しだいでさまざまな可能性がある。
- iv) 博物館を主体として捉えた意見として、博物館が学校・地域の活動を支援する。／博物館が主体となってNPOやボランティアが協力する。／博物館が地域の文化や自然を保全するように県民の価値観の転換に寄与する活動を行う。／博物館が専門の見地から学習会等に講師を派遣したりNPOの活動をアドバイスしたりする。

2) パネルディスカッション（これからの博物館を考える）のまとめ

シンポジウムでは、千葉県からの報告が2件、民間からの博物館活動への期待と注文が3件の合計5件の報告が行われた。5名の報告者はその時点の肩書で千葉県教育庁生涯学習部文化財課主幹・佐久間豊氏〔報告タイトル：昭和40年代からの県立博物館設置の経緯〕、千葉県立中央博物館生態・環境研究部部長・中村俊彦氏〔報告タイトル：中央博物館設置の経緯とこれからの役割〕、(財)日本自然保護協会理事長・田畑貞寿氏〔報告タイトル：自然誌博物館への期待〕、千葉県自然保護連合事務局長・佐野郷美氏〔報告タイト

ル：博物館と私、そして博物館に期待するもの]、NPO法人千葉まちづくりサポートセンター運営委員・鈴木優子氏 [報告タイトル：地域の文化・科学情報発信拠点として]であった。

報告の後のパネルディスカッションには、上記の報告者5名がパネリストとなり、会場の一般参加者を含めて意見交換や対話が進んだ。コーディネーターは(財)世界自然保護基金ジャパンシニアオフィサー・花輪伸一氏であった。

各パネリスト及び会場からの意見の要約は、下記のとおりであった。

①展示について

- ・博物館の事業で最も重要なのは、わかりやすく楽しい展示である。常設展も一度つくってそのままではなく、いろいろ工夫してバージョンアップさせていくことが来館者の増につながる。「来館者が減ったから予算を減らす」というのはまったく逆の発想といえる。
- ・博物館は展示解説の工夫と展示解説員の充実が重要。
- ・展示室だけでなく、収蔵庫という普段は見られない博物館の裏の仕事の現場を見る機会があることも博物館の新しい魅力につながる。博物館に関心の高い人にとっては実際に楽しい。
- ・面白い企画展を見せもらい、興味を持った人たちがその続きを知りたいと集まったが、担当者が博物館を辞めてしまい補充もなくて、その後の活動が続かず残念だったことがある。
- ・研究者の価値観を披露する展示は研究者によほどの力量がないと飽きられる。ボランティアコーディネートの経験がある面白い研究員がいて、市民と一緒に研究したものを展示できる場が提供されると博物館の魅力になる。
- ・博物館の研究者は、自分が面白いと思って

いるものをドーンと出してきて「どうだ、面白いだろう」と一緒に楽しんでしまうようなゆとりがあってもよい。みんなが気づかない面白さを研究者が提供することも博物館の魅力につながる。

②フィールド・ミュージアムについて

- ・みんなが野に出、山に出、街に出て、見えるものを見て、資料として整理できるものを整理する。
 - ・博物館が拠点となって市民・専門家・行政のネットワークをつくり、それらが協力して10年頑張れば立派なミュージアム・システムとフィールド・ミュージアムができる。
 - ・三番瀬のフィールド・ミュージアム化の検討。
 - ・フィールド・ミュージアムの管理運営に対する地元のNPOや住民、更に地元行政や博物館のアイデアの交換の場をつくる。
 - ・自然との共生について博物館がもっと前面に出て、ボランティアの教育やアドバイザーとして活躍し、更に環境教育の場として活用するのであれば、私有地までを含めて博物館のフィールドにできる可能性がある。
 - ・生物の世界には聖域として守っていかなければならないところもある。房総半島の中に生物の聖域をきっちりと位置づけて管理する。
 - ・千葉県の博物館行政は全国でもトップレベルだが、野生生物行政は非常に低い水準にある。博物館が何でもできるわけではなく、千葉県の野生生物行政のレベルを上げるにはワイルドライフセンターや野生生物研究所を別途つくる必要がある。
- #### ③移入種問題について
- ・千葉県は外来種が氾濫して環境秩序を乱しており、この問題に博物館も取り組む。
 - ・移入種問題を広く知ってもらうために、成田空港内に博物館の分館をつくる。

④博物館行政について

- ・博物館の事業は、すぐに結果が出るものではない。採算が合わないからこそ行政が行う。
- ・今回のような討論会の繰り返しが重要。いろいろな審議会に参加したり公開される文章に意見を述べていくことも必要。
- ・知事部局と教育部局でダブっている事業があるので、一本化を検討する。
- ・博物館の見直しは緊急の課題のようだが今後どのように合意形成を図っていくのか、やり方が重要なテーマになる。合意形成がうまくいかないと、意見が反映されなかったり切り捨てられたりして、行政に十分に伝わっていない。
- ・今回はイントロダクション的なシンポジウムだが、今後はテーマを絞りながら合意形成を目指して何らかの形で博物館の問題をきちんと考える仕組みを作っていくことが必要。
- ・芸術文化も自然保護も同様で、行政の役割はあくまでも支援で、主人公は市民やNPO。今後はNPOとの関係づくりを大切に考えていかないと、博物館の活性化はない。
- ・博物館の見直しは、国の役割、県の役割、市町村の役割をトータルに考えた上で、サービスの低下が起こらないように検討する。開かれた政策形成を基本にする。
- ・開かれた博物館になるには、館長や博物館協議委員の公募や公選、地域の課題解決に役立つ研究テーマや展示テーマの公募などが必要。
- ・千葉県の文化振興は、ようやく欧米先進国のレベルに近づいているが、まだまだ発展途上。行財政の逼迫は博物館が原因ではなく、行財政逼迫の原因をきっちりと分析することが必要。文化振興にはまだまだ継続的な支援が必要で、博物館の研究者の年間研究費がわずか数万円では、優秀な研究者

を引き止めて置けなくなる。

⑤県民・NPOや現場との連携について

- ・これからの博物館にとって県民やNPOのニーズを知るためのマーケットリサーチは重要。
- ・博物館には必要な予算をきちんと確保してもらわなければ、博物館の機能は低下する。館長が予算を確保するために、利用するわれわれが博物館をサポートしていく必要がある。
- ・中央博物館の生態園での研究成果は、今後いろいろな自然復元の現場で役立っていく。
- ・学校の教員との連携をもっと進める。高校の生物の教師が集まって研修会を開き、博物館の利用等についても話し合っている。できるだけ授業の中で生徒に博物館の見学の機会を与えたいし、また、自分で博物館を訪れて調べたことが授業に役立っている。
- ・博物館がNPO・NGOの溜まり場ようになっていくと、プロとアマチュアのいい関係が作りやすくなる。

⑥博物館のポリシーについて

- ・博物館の研究者は、学術研究と社会教育を一体として行う使命を持っている。
- ・博物館には市民科学、市民と一緒に科学するというポリシーが重要。
- ・県立博物館には沼田構想というすばらしい構想が受け継がれており、ネットワークを広げてこの博物館の役割をもっとアピールしていけば、地域だけでなく世界の環境問題や文化面で大きな貢献ができる。
- ・子どもがどのような自然観、生命感を育んでいけるのか、注意深く見守る責任がある。
- ・学校教育はどうしても基礎的な知識を詰め込むところがあるが、博物館には好きな人や関心のある人の個性を伸ばす教育を期待する。

⑦博物館の評価について

- ・評価手法を考えていくことは重要。来館者数での評価はどこでもやっていることであり、目新しいことではない。(財)日本博物館協会なども評価方法について検討しており、他県の評価方法や県民の意見も参考にしながら、千葉県としての評価のあり方を検討する。
 - ・教員として、また環境NGOとして、博物館には貴重なアドバイスをもらい世話になってきた。展示だけでなく、こうした目に見えにくい機能についての評価指標も重要。
 - ・博物館の活動をより充実させるために評価尺度が必要。また、厳しい県の財政状況の中から博物館の予算を確保するには、博物館にあまり関心のない人に対する説明責任も必要。評価尺度と説明責任は関係している。
 - ・博物館を評価することは、博物館をきちんと運営する武器になる。館長などの博物館を代表する人が博物館の評価はこうだから行政の政策はこうすべきだというようなことを、マーケティングリサーチの結果とあわせて提案することもできる。市民に理解され行政にも理解される評価方法をつくることは、そうした意味でも重要。
 - ・博物館の評価は、来館者が何人来たよりもやっていることの内容の評価。
- ⑧博物館の新たな役割や事業について
- ・他県の修学旅行の班別行動で三番瀬の案内を頼まれることがある。博物館にはこうした全国の学校のニーズにもこたえて欲しい。中央博物館には、三番瀬の情報発信の一つの基地としての役割を担って欲しい。常設展示は無理でも特別展は必要。
 - ・千葉県が提唱する「21世紀型の千葉デモクラシー」を実現するには、市民セクターにも専門的な知見に基づく評価能力や政策立案能力が求められる。そうした基礎的な研究の場、市民研究者等の人材育成の場とし

て、市民に開かれた博物館の役割を期待する。

- ・博物館の自然保護や環境保全の問題での貢献が大きくなっている。市民は好きなことを日々現場で行っていくのは得意なので、博物館にはそうしたアマチュアの市民にアドバイスや指導をお願いしたい。
- ・生態園の研究成果を生かし、実際の自然の復元にも博物館なりのやり方で取り組む。
- ・県行政は開発等を推進する際に環境アセスメントを実施しているが、そこに博物館を反映させることが重要。

4 千葉県立博物館構想に関する県民提言

前出の学習会での成果、シンポジウムの事前アンケートの結果、シンポジウムの成果を踏まえて、以下の3つの県民提言を作成した。

【提言 I】 県立博物館は地域の課題に取り組み、次の6つの期待に応える公共施設として、主体的に運営を行う。

- 市民とのネットワーク・協働によって、市民と響きあう博物館
- 地域の文化・科学情報の発信基地となり、地域の文化や自然といった環境と共生し、人も環境も共に育つまちづくりの拠点としての博物館
- 今日とこれからの視点を大切に市民とともに地域の新しい価値やライフスタイルを創造する社会教育機関としての博物館
- 地域資源を発掘・保全し、これを有効に活用し、そして地域の課題を解決する支援体制が整備された博物館
- 子どもの健全な育成を支援する博物館
- 具体的な評価の方法を示し、評価を受け、自ら主体的に質を上げることができる博物館

【提言 II】 今日の県財政逼迫は博物館の運営に起因するものではなく、支出削減を理由にした博物館統廃合計画には反対する。県の博

博物館施策は博物館の役割を確認しかつ評価システムを構築することを前提に次の視点で進めていくことを求める。

○提言Ⅰの博物館への6つの期待に応える博物館施策の充実

○施策決定プロセスの徹底した情報公開と当事者である県民や博物館の参画（21世紀型の千葉デモクラシーの実現）

【提言Ⅲ】各博物館は、当面の課題として可能な部分から県民やNPOとの協働を積極的に進めるとともに、そのための体制（基本方針、制度、環境など）を整備し、行政と市民による新しい公共性を構築する一翼を担う。

おわりに

博物館を取り巻く環境は、3年前に比べてどの程度改善されているのだろうか。3年前の県民の意見や期待はどこまで博物館の運営の中に反映されているのだろうか。それ以前に、博物館は自らがどのように変わってきているのだろうか。

県民が期待するわかりやすく面白い展示について、現在の展示はどこまで創意工夫が加えられたのであろうか。地域の課題解決のための研究体制は整備されてきているのであろうか。NPOやボランティア団体との協働といったネットワーク型の事業は増えているのだろうか。県民やNPOからの期待が大きかったフィールド・ミュージアム事業は、ど

こまで進展したのだろうか。

博物館の現場の権限が前よりも大きくなり、現場で迅速にものごとが決められる仕組みができてきているのだろうか。個々の博物館は、自らの評価の尺度をつくりえたのであろうか。

博物館にとって最も重要なのは評価の問題と思われる。特に内部評価が重要である。その内容・基準は、現場の博物館職員が自らつくらなければ自立した博物館にはならない。それをつくり、堂々と公表して、行政も市民も納得する評価システムを構築して欲しい。通常の業務の内容とその評価システムによってもたらされた評価結果が個々の博物館が自立し、自ら改善される大きな武器になるはずである。予算の獲得も、県民の応援や支援も、助成金や寄付金の獲得も、今後はしっかりと評価が前提であろう。

われわれNPO法人千葉まちづくりサポートセンターも市民の視点からの博物館の評価尺度を試作した。2004年3月に「新世紀において千葉の博物館が生み出すべき価値の検討と評価尺度づくり」として報告書にまとめているので、参照していただければ幸いである。

博物館の見直しは始まったばかりである。指定管理者制度も動き出しており、民間委託や市町村への移管もこれから本格化していくと思われる。

アンケートから知るお客様の満足度

八千代市立郷土博物館 佐藤 誠

1 はじめに

公立博物館も時代の波にもまれ、経営の在り方について一昔前のような「親方日の丸」的な発想による運営は、過去の遺物となった感があります。公益の施設であっても切迫する自治体の経済情勢を考えると、自助努力による財源の確保をめざし、市民との良好な信頼関係の構築を第1として博物館の運営をする時代になったと言えるでしょう。

地域の博物館として、地域の発展に寄与し、市民にとって真に役立つ存在であり続け、その存在価値について市民から理解を得ていく必要に迫られています。そのためには、まず職員が博物館人としての意識を高めることが大切であり、「我が事」としてすべての職員が館務に携わる必要があると言えます。そこで、今回は当館で実施しているアンケートの活用の仕方を紹介し、最後に私が以前、研修でお世話になった企業で実践されているアンケート結果の活用方法について参考までに紹介してみたいと思います。

2 アンケートへの取り組み

当館では、まずお客様の声を拾うことから始めようと、企画展の際にアンケートを行っています。当館のアンケート回答率は、平均すると開催中入館者の約26%ですが、多くのお客様にアンケートにお答えいただけるよう、アンケート台の設置の仕方にも配慮しています。展示室の出入り口にアンケート記入のための机を設置し、高齢者のために老眼鏡をおいて利用して頂いています。ささやかなことですが、アンケートに答えたいという気持ちのあるお客様にはすべての方にお答えいただけるように配慮しています。またアンケート記入を呼びかけるポスターも掲示し、



アンケート記入台は
展示室の出入口に設置している

アンケートそのものの認知度を高めるようにしています。

〈アンケートの設問例〉

- | |
|---------------------------------------|
| (1) 来館者のデーター
ア、居住地
イ、性別
ウ、職業 |
| (2) 展示を知った理由
ポスターや地域情報紙など |
| (3) 展示の感想 |
| (4) 資料の情報提供の呼びかけ
資料の内容と連絡先の記入 |

以上が、当館の企画展示時のアンケートの内容であり、比較的多くの館でも同様の内容で実施していることと思われます。特に展示への感想は、展示に対するお客様のストレートな意見として、「気づき」を与えてくれることが多く、展示担当者が最も期待して目を通す部分でしょう。そこには、励まされる感想はもとより、「良薬口に苦し」といった感想もあり、意外とその部分にこそ、展示をより良いものにする、アンケートの真の価値が秘められているといっても過言ではないと考えます。

また、(4)の資料の情報提供の呼びかけは新しい資料の発見につながることもあり、おもちゃの展示であれば、おもちゃの寄贈があったり、切符の展示であれば切符の寄贈があったりと、新たな資料を呼び込むチャンスを生んでいます。多くの場合、寄贈や寄託は先方から来るのを待つような構図になっていますが、積極的な資料の収集という視点から見れば、このアンケートの項目があるだけで、大きな差が生じます。資料収集の手段としても有効であると言えます。

さて、今年度の企画展では、冒頭で述べたように通常の展示内容の見直しだけでなく、館の運営そのものも見直しも求められていることから、上記のアンケート内容以外に次の項目も新しく取り入れました。

すなわち、

- (1) 施設内の印象
館内の清掃状況を客観的に判断
- (2) 施設内に欲しいもの
ア、ベビーベッド
イ、ベビーカー
ウ、授乳室
エ、コピーサービス
オ、その他
- (3) 期待するサービス
ア、職員等による展示解説
イ、市民のニーズに応えた講座
ウ、学校対応の充実
エ、その他

以上の内容を盛り込みました。その結果を分析することにより、市民の方がどのような要望を持っているのか、今回のアンケートではじめて具体的にわかりました。

施設面については、注目度の高い高齢者対応のバリアフリーには配慮されているが、乳児を抱いた母親の利用には殆ど配慮されていないため、ベビー関連の備品の要望がどのくらいあるか注目しましたが、これらの備品を

希望したのは解答者全体の10%以下でした。母親が博物館を利用するための目的が何であるか、改めて考えていかななくてはならないと実感しました。それは例えば、育児の歴史やベビー用品の変遷など、母親として興味・関心のわく展示や講座の企画というようなことです。注目すべきはコピーサービスが欲しいという意見が最も多く、図書資料室での利用を望むものでした。その他としては、荷物を持って見学したくないのでロッカーが欲しいというご意見がありました。

サービス面への期待としては、多くの企画展の実施、職員による展示解説、市民ニーズに沿った講座の要望が多く、解答者の半数近くが希望していました。また、学校に於ける「総合的な学習」の宿題として、各家庭での調べ学習が増えてくるに従い、主に母親からの調べ学習にたいするサポートが欲しいとの声も多く寄せられました。子どもにも理解しやすく学校の地域学習の課題になりそうなテーマの資料を、館として事前に準備し要求に応じてすぐに資料を提供できるような態勢をとる必要があります。

その他としては、レシーバーによる音声ガイドの導入を望まれる方もいらっしゃいました。キャプションの見やすさの追求と音声による解説は、展示理解のための大切なポイントになると思われます。

これらの要望に対してできるだけ実現可能なものについては改善していきたいと考えています。一番の壁はやはり予算面ですが、例えばベビーベッドやベビーカーなどの導入は、わざわざ購入しなくても市民のみなさんに呼びかけて、無償で頂くこともできるでしょう。現在は私が担当になり、これら館内サービスの向上のため学芸会議で提案し、承認を得たものはすぐに実行しています。担当者を明確にすることは、サービス向上のためには絶対に必要なことです。お金を使わずお客様のためになると判断できたことは、すぐ



館の第一印象を左右する受付

に実行するスピードが重要です。そのために担当者は知恵をしぼる必要があるのです。そして毎年のアンケートの結果を分析し、前年度に比べて満足度がどのくらい変化したか評価することも忘れてはならないでしょう。

3 職員評価のための企業のアンケート

評価という点では、施設や展示内容が中心になると思いますが、これからは、対応した職員（ボランティア）の個別評価も必要な時代だと考えます。施設や展示のハード面が高い評価を受けても、結局その施設で働く人間そのものの評価が高まらなくては、意味がないと考えるからです。ロボットが対応する施設を想像してみてください。血が通わないサービスは本物ではありません。ロビーですれ違う職員の笑顔の挨拶や入館時の受付での職員の明るい対応、解説する学芸員の言葉遣いや服装、ユーモアなど、すべての職員の人間的要素が和になって総合的な館の評価を決めるのだと考えます。博物館・美術館にもホスピタリティ産業としての心構えが必要なのです。博物館・美術館は、教育施設であると同時に、多くのお客様が集う場所でもあります。職員のひとりひとりがお客様と接する機会がある以上は、すべての職員に接客のマナーを意識させ、職員全員の博物館職員としてのモチベーションのアップを計らなければならないでしょう。そこで多くのサービス産業に関わる企業では、お客様に対応した職員

の評価も行われています。これは受付やお客様の対応をした職員個人の評価をしてもらうものです。この方法はすでに外資系のサービス産業に定着している評価法で、顧客満足度調査といわれている方法です。その調査結果を有効に生かすことで、職員のやる気の向上に大きく貢献していると聞きます。

〈アンケート例〉

- ・本日、ご案内させていただいた職員の対応はいかがでしたか？
 - ア、大変良い
 - イ、良い
 - ウ、ふつう
 - エ、あまり良くない
 - オ、かなり良くない
- ・印象に残られたことやご意見などございましたらお書き下さい

これらは期間を設けて集計され、だれが対応したものか勤務シフトなどで確認し、点数化して1ヶ月ごとに個人に全職員の一覧表として配布されます。その集計された評価の中で、評価の極端に低い職員は、所属長との面接などを通じ、自己の接客の不備な点を自覚し、改善していくこととなります。また、評価の高かった職員は、やる気を感じ、さらにお客様のために研修を積み、ますます高い評価を得るようになるそうです。おそらくこの評価法は、これからの博物館・美術館においても参考になると考えます。特に、ボランティアで展示解説員などを多く抱えている博物館・美術館では、このような評価法は有効かもしれません。ボランティアであっても、お客様から見れば、正職員もボランティアも関係がないからです。無償で活躍してくれるボランティアに、耳の痛い話はしにくいものですが、質の高いボランティアを確保するためにも有効な評価法だと思われます。

4 おわりに

当館のアンケートの集計結果に対する分析・改善への手立て・実態、そして企業による職員の評価の一例を書かせていただきました。お客様の生の声を聞く手立てを持つことは、これからの博物館・美術館の発展のため

には不可欠なことです。放っておいても人が集まる時代は終わりました。これからは「博物館が時代の要求に素早く対応するスピード・固定概念にとらわれない柔軟な発想・変革を恐れない経営の実現」これが博物館発展のキーワードになるように思います。

印旛村における政策評価と歴史民俗資料館事業

印旛村歴史民俗資料館 能 勢 幸 枝

1 はじめに

近年、時代の変化と住民ニーズの多様化、地方分権、行政の透明性、財政状況に対応するため自治体において事務事業の評価制度が導入されるようになった。本村では平成13年度より政策評価制度が開始されており、その現状を紹介する。

2 印旛村歴史民俗資料館の概要

当館の所在する印旛村は人口約1万2千人。千葉県北部のほぼ中央に所在し、印旛沼の北西部に位置している。昭和60年に印旛村が文化庁の文化財保存施設整備補助を受け建設し、昭和61年に開館した。

開館以来、平成16年度までは文化財担当の一般行政職が歴史民俗資料館に配置され、文化財事務の業務と歴史民俗資料館業務を行ってきた。今年度より本来の主務である文化財事務に従事するため教育委員会事務局に席を移し、歴史民俗資料館事業を実施している。

職員の構成は館長以下係長1名、副主査(学芸員有資格者)1名の計3名であるが、館長は生涯学習課長、中央公民館長、図書館長を兼務しており、係長も社会教育係長、文化財係長、資料館係長を兼務し、担当職員も文化財事務を兼務している。資料館業務では施設維持管理が占める割合が大きく来館者のイメージする博物館事業に支障が生じている。

また、予算も減額の一方で、その内訳は施設の維持管理経費が主となっている。

公民館、図書館と異なり、教育委員会事務局の業務と同一視されるため増員要望の理解が得られにくい。ところが、組織上では公民館、図書館と同様に教育機関として独立しているため担当職員からみれば不均衡な状態と判断せざるを得ず、取り巻く環境が非常に厳

しいといわざるを得ない。

3 印旛村政策評価制度の概要

政策評価実施要綱(平成13年8月1日施行)に基づき実施されているが、職員が十分に理解しないまま開始された感がある。

基本的な考え方は住民ニーズの把握、資源配分の状況、事業改善、事業推進の効率性、妥当性となっている。

評価の対象は本村で計画、実施するすべての事業が評価の対象となり、政策、施策、事業レベルで評価を行う。

評価の時点は事前評価(立案)、中間評価(実施)、事後評価(終了)の3段階に分かれ、事業内容(対象、手段、意図)、業績評価、投入状況、事業を取り巻く環境分析、推進方向を一覧表にまとめる。

現在のところ中間評価が主となっている。

評価方法は基本的には数値によるものであり、評価項目は必要性、妥当性、有効性、効率性となっており、担当課による自己評価を経て、政策評価推進会議で総合評価が行われる。

総合評価は重要度を4段階で評価し、以下3点の評価の視点(表1)により点数で評価される(表2)。

表1. 評価の視点及び配点

評価の視点	配点
各課による一次評価の結果	20
評価項目	70
事業の必要性	(20)
事業の妥当性	(20)
事業の有効性	(15)
事業の効率性	(15)
重点的政策課題への貢献度	10
合計	100

表2. 重要度評価

ランク	重要度評価	得点
AAA	重要度が極めて高い事業	80～
AA	重要度が高い事業	70～
A	重要な事業	60～
F	重要度の低い事業	60未満

4 歴史民俗資料館における評価対象事業

当館（担当職員）では館の目的を明らかにするとともに理解を求めため展示、普及、資料保管、調査研究の4事業について評価対象事業とした。

博物館評価であればさらに細かな項目が列挙されるであろうが、庁内全体の事業が対象となり、予算措置されていない事業については評価対象からはずれることを考慮した結果であったが、予算措置が歴史民俗資料館事業として1本であることと開け閉めすればよい施設であるとの判断なのか当初から評価対象事業数の見直し（＝削減）を求められている。

5 平成17年度政策評価推進会議結果

平成17年11月に今年度の政策評価が報告され、4事業とも政策経常事業として認められているもののその評価（表3参照）は厳しいものといわざるをえない。なお、得点の内訳は担当には通知されない。

表3. 歴史民俗資料館政策評価結果

事業名	評価得点	ランク結果
展 示	66	A
普 及	66	A
資料保管	74	AA
調査研究	66	A

6 今後に向けて

当館のような零細規模の館は行政の一セクションに過ぎず、政策評価についても行政運営の視点にたつ事業の成果の客観的な把握にとどまり、日常業務に追われてしまい、分析や改善に対する取り組みが不十分であるといえよう。

しかし、総合計画あるいは実施計画と予算のすり合わせ、事業立案という点からは有効な手段と考えられる。

平成18年度からは政策評価対象事業でないと予算計上もできず、予算措置のない事業についてはその評価からはずす予定であり、評価が低ければ不要な事業と判断される。

担当の力量不足も大きいですが、最近の指定管理者制度の導入などをみても、行政における博物館に対する必要性の低さはとどまることをしらないように感じる。

施設の維持管理は事業として対象にならないにもかかわらず、予算では大きな割合を占めるという矛盾が生じており、成果を生み出すための職場環境や人的環境についても評価の必要性を感じる次第である。

各館で実施している来館者アンケート調査から

千葉県立中央博物館 林 浩 二

1 はじめに

千葉県博物館協会調査研究委員会は、これまでも、研究紀要 MUSEUMちば でとりあげるテーマに関して、会員各館を対象にアンケート調査等を行い、また事例報告を集めてきました。ウェブページでも見る事ができる歴代の MUSEUMちば の目次からは、この研究紀要が、会員館園の日常の活動の様子の情報交換に役立っていることが読み取れます。

その際の立場と同様、調査研究委員会に代わってとりまとめるこの小文の目的は、集まったアンケート書式の比較分析や批評ではなく、あくまでも議論と検討のための材料の提供にあります。

2 アンケート書式の採録

千葉県博物館協会調査研究委員会が研究紀要 MUSEUMちば 37号で「博物館評価」をとりあげるにあたり、年度当初に各館にアンケート調査を行ったところ、「他館のアンケート用紙を参考にしたい」という声が多く寄せられました。そこで2005年7月に、加盟館園で実際に使われているアンケート書式を、本誌への転載を前提としてお寄せいただくよう、依頼しました。

その結果、通常期間および企画展などの特定期間を実施しているものをあわせ、13館から17点が集まりました。採録にあたっては、

データファイルでいただいたものはできるだけそのまま、ファクスや実物でお送りいただいたものは当方で入力し、できる限り似たレイアウトに配置しました。とはいえ、印字されたものをそのまま製版したわけではないので、そっくりそのままではないことにはご注意ください。オリジナルを参照する必要が

ある場合には、それぞれの館に直接お尋ねいただき、入手されることをお勧めします。

本文に引き続き、館名の五十音順で図1～17にアンケート書式を採録しました。夷隅町立郷土資料館(図1)、航空科学博物館(図2)、国立歴史民俗博物館(図3・4)、下総町立歴史民俗資料館(図5・6)、城西国際大学水田美術館(図7)、千葉県立中央博物館(図8・9)、流山市立博物館(図10)、成田羊羹資料館(図11)、成東町歴史民俗資料館(図12)、船橋市郷土資料館(図13)、麻雀博物館(図14)、松戸市立博物館(図15・16)、茂原市立美術館・郷土資料館(図17)です。

国立歴史民俗博物館と流山市立博物館からは、アンケートの集計・分析までお寄せいただきましたが、誌面の関係から掲載することはできませんでした。

3 博物館の評価

来館者へのアンケートは、博物館における評価の方法の一つです。博物館の評価に関して、たとえば博物館事業全体についての事業評価から、企画展示の評価、講座・観察会等についての評価など、様々な段階があります。同様に手法も様々です。国内で容易に入手できるこの分野に関する文献は、実は多くはありません。滋賀県立琵琶湖博物館から研究調査報告書第17号として2000年に刊行された「博物館を評価する視点」には枠組みの解説をなどやや詳しい解説がでています。これを含め、末尾に参考文献のリストをあげておきましたのでぜひご参照ください。

4 展示についてのアンケート

企画展示(常設展示以外の展覧会)の来館

者アンケートでぜひとも尋ねたい項目として、以下の3つをあげておきます。

a. 集客・広報の問題

集客・広報の問題は、その展覧会について、何を見て、知ったのか？ ということです。一般に企画展示の際には特別の広報活動を行います、それがどの程度に有効だったのかをはかる材料になり得ます。

b. 展示技術の問題

次に、展示技術の問題は、展示環境の問題でもあり、見づらい、わかりづらい点はなかったか、ということです。ここであがってくる問題は、可能ならば速やかに対応し、会期中に解決されることが望ましいでしょう。実際には容易には対応できないケースのことが多いかもしれません。その場合には次回以降の計画の際に注意すべきこととして記録に残して共有・蓄積する必要があります。

c. 目的の問題

最後の目的の問題は、その展覧会の目的が達成されたのかという観点です。展示する側が伝えたいと願っているテーマが伝わったのか、その展覧会を見て、結局のところ、どんなものを持ち帰ってほしいのか、どうなってほしいのかという点で成功したのか、ということです。

もうひとつ、展覧会としての成功の尺度の一つとして使える可能性があるのは、その展覧会について他の人に伝えたいと思ったかどうか、ということです。他方、常設展示であれば、もう一度訪れるつもりかどうかということも指標になるでしょう。

以上の項目と、回答者の性別、地域、年齢、職業などの属性の組み合わせが、改善のための材料となるでしょう。

5 アンケートの方法

今回、集まった17点のうち、多くは特に明示はされていませんが、自由記入式、すなわ

ち、回答者が自分だけで書くもののように見えます。一方、国立歴史民俗博物館からは、自記式と面接調査の2つの型をお寄せいただきました。「よくできた」アンケート用紙であれば、自記式でも記入しやすいものですが、一般には記入に困ることも少なくありません。その点、面接調査であれば、調査者が書式の欠点を補える可能性があります。

配布の方法として、一般には用紙が置いてあり、回答する気になった人が自由に記入することが多いと思われます。他方、たとえば入館者全員に配布したり、あるいは何人おきと決めて配布するなどのやり方もあり得ます。

6 まとめに代えて

評価やそのためのアンケートは何のために実施するのでしょうか？

実際には、調査活動をするだけで集計さえおこなわれなかったり、あるいはまとめられてもそこから改善の方向が見いだせなかったりということも少なくないようです。あるいは、改善の方向は見えても、館内の事情でそれが採用されないこともありえます。

評価や調査の結果は、展示や事業、あるいは博物館と地域住民の関係など問題の点について、何らかの改善につなげるべきであることをしっかり意識しておく必要があります。

井上由佳(国立歴史民俗博物館)によれば、展示評価は

- ・展示を知り、現状を見つめ直す力
- ・改善の方向性を見つける力
- ・観客を知る力(今後のあり方を探る機会)

の3つの力をもたらしそうです。そして、何よりも大切なのが、その力を、博物館を変える力にうまく転換していくことです。

地域におけるよりよい博物館活動に向けて、展示や活動の改善に役立てていただければ幸いです。

謝 辞

各館で実施しているアンケートについての調査にご協力いただいた加盟館園のみなさまに深く御礼申し上げます。

また、評価について様々なご教示をいただ

いた井上由佳博士（国立歴史民俗博物館）、また参考文献紹介のとりまとめにご協力いただいた牛島薫博士（千葉県教育庁文化財課）に感謝いたします。

入館票

平成 年 月 日

ご来館ありがとうございます。

下欄にご記入下さい。

住所	都道府県 市区郡 町村				
氏名 代表者 団体名	(個人名書きたくない場合は結構です)				
人数	名	性別	男女	年代	1. ~10代 2. 20~30代 3. 40~50代 4. 60代~

アンケートにご協力下さい

◎ この資料館（田園の美術館）を何で知りましたか。
今回の企画展

新聞 雑誌 地域情報紙 チラシ
 インターネット 人から聞いて その他

どこで・何でみましたか。
紙誌名チラシ場所等

◎資料館までの主な交通機関は何ですか。

徒歩 車 シャトルバス バス いすみ鉄道 その他

◎来館は

初めて 2~3回 何度も来ている

ご意見・感想・希望企画など

図1：夷隅町立郷土資料館（公立、歴史） 来館者全般向け（企画展向けを兼ねる）

アンケート回答用紙

年 月 日

本日は、航空科学博物館へのご来館、誠にありがとうございます。
今後の参考にさせていただきたく、ご意見・ご感想をお願いいたします。

1. 当博物館をどのようにお知りになりましたか。
①テレビ ②新聞 ③ラジオ ④雑誌 ⑤インターネット ⑥知人から
⑦案内看板 ⑧その他 ()
2. どのような交通機関でいらっしゃいましたか。
①車 ②電車 ③バス ④バイク ⑤自転車 ⑥その他 ()

なお、個人又は団体でいらっしゃいましたか。
①個人 ②団体
3. 航空科学博物館をご覧になってのご感想はいかがでしたか。
①よかった ②ふつう ③よくない
4. よかった又は、よくないと思われたものは何でしたか。
5. 今後、企画展や展示品などご希望されるものがありましたら、お願いいたします。
6. その他なんでもご意見がございましたら、お願いいたします。

お名前	男・女
ご住所 〒	
Tel	年齢 才
*この情報につきましては、目的以外の使用は一切いたしません	

ご協力ありがとうございました。

図2：航空科学博物館（私立、科学） 来館者全般向け

調査日：2005年 7月 日() 調査時刻： 時 分 調査員：

「水辺と森と縄文人：低湿地遺跡の考古学」アンケート

Q1 今日どちらからお見えになりましたか。

- 1)佐倉市 2)千葉県()市郡 3)東京都()区市 4)神奈川県
5)埼玉県 6)茨城県 7)その他()

Q2 今日どなたと来られましたか。

- 1)家族・親戚と 2)一人で
3)知人・友人と 4)グループ・団体で(20名以上) ()
5)その他()

Q3-1 以前、歴博に来られたことはありますか。

- 1)初めて 2)2回目 3)3回目 4)4回以上

↓
Q3-2 前回来られたのはいつですか？(過去の企画展一覧を参考に)

- 1)1～2年以内 2)3～4年前 3)5年以上前

Q3-3 歴博への交通手段について教えてください。

- 1)自家用車
2)自転車
3)徒歩
4)京成佐倉駅から → a.徒歩 b.バス c.タクシー
5)JR佐倉駅から → a.徒歩 b.バス c.タクシー
6)その他

Q4 今回の「水辺と森と縄文人」についてどのようにお知りになりましたか。(複数回答可)

- 1)ポスター・チラシ 京成(車内・駅) JR(車内・駅) 観光案内所 文化施設
その他()
2)新聞 朝日 読売 日経 毎日 産経 千葉日報 毎日小学生新聞
その他()
3)雑誌 さびあ Weeklyぴあ 芸術新潮 ぐるっと千葉 エリート情報 進学情報誌
その他()
4)テレビ・ラジオ (局名) 番組名：)
5)歴博に来てから
6)人に聞いて ()
7)インターネット 歴博のHP その他()
8)その他 招待券・ちらし 前回来館時 その他()
9)歴博パンフレット(歴博の行事カレンダーなど)
10)ゲート

Q5 今日、来館された目的は何ですか。(複数回答可)

- 1)「水辺と森と縄文人」をみるため
2)常設展示をみるため
3)常設展示と「水辺と森と縄文人」をみるため
4)その他()

Q6 今日、常設展示は見学されましたか。(見学される予定ですか)

- 1)見学した 2)これから見学 3)見学しない 4)わからない

Q7 「水辺と森と縄文人」をみようと思った理由は何ですか。

- 1) 歴博に来たらやっていたので
- 2) 今回のテーマに関心があったため
- 3) 人に薦められたので
- 4) なんとなく面白そうだったので
- 5) その他 ()

Q8 割引券の導入を検討しています。420円の入館料が350円(団体料金)になる割引券があったら、使われますか? はい いいえ

「水辺と森と縄文人」についてお聞きします。

Q9 「水辺と森と縄文人」をご覧になって、どのセクションが印象に残っているかを教えてください。(複数回答可、該当欄に○をつける) また、どのような点が印象に残ったのかご回答ください。

セクション名	印象に残っている	印象に残っていない	どのような点が印象に残りましたか。
1 プロローグ			
2 縄文時代の工芸			
3 水辺の生活			
4 川辺のムラ の生活復元			
5 エピローグ			

Q10-1 全体的な感想はいかがでしたか。

- 1)満足 2)やや満足 3)やや不満 4)不満

図 3b : 国立歴史民俗博物館 (国立、歴史・民俗) 企画展向け 面接調査用

Q10-2 どのようなところがそのように思われましたか。

★Q11-1 展示の解説パネルを読みましたか。

1) 読んだ 2) 少し読んだ 3) 読まなかった

↓

★Q11-2 展示の解説パネルはいかがでしたか。

1) 非常にわかりやすかった 2) わかりやすかった 3) どちらともいえない
4) わかりにくかった 5) 非常にわかりにくかった

Q12 この企画展では3つの部屋ごとに、展示品の数に変化をつけてみました。お気づきになりましたか？ はい いいえ

↓

Q12-1 どの部屋の展示品の数が適当であると思われましたか？

第1室 第2室 第3室

Q13 展示をよりわかりやすくするために、工夫するべきところがありましたか。

Q14 その他に「水辺と森と縄文人」に関するご意見、ご要望がありましたら教えてください。

最後にあなたご自身について教えてください。

Q15 差し支えなければ年齢を教えてください

1) 15才以下 2) 16才~19才 3) 20代 4) 30代 5) 40代 6) 50代 7) 60代以上

学年：小学・中学・高校・大学（ ）年 性別：男 女

図3c：国立歴史民俗博物館（国立、歴史・民俗） 企画展向け 面接調査用

『水辺と森と縄文人』アンケート

本日はご来館いただきありがとうございました。当館の展示についてお客様のご意見、ご感想をお聞きし、今後の改善のために役立てたいと考えております。お忙しいところお手数ですが、アンケートにご協力をお願いいたします。

1. 今日はこちらからお見えになりましたか？

1. 佐倉市 2. 千葉県 () 市郡 3. 東京都 4. 神奈川県 5. 埼玉県
6. 茨城県 7. その他 ()

2. 企画展示について何でお知りになりましたか。当てはまるものすべてに○をつけください。

1. ポスター・チラシ (どこで:) 2. 新聞 (紙名:)
3. 雑誌 (雑誌名:) 4. テレビ・ラジオ (番組名:)
5. 歴博に来てから 6. 人に聞いて ()
7. ホームページ 8. その他 ()

3-1. 歴博に来られたのは何回目ですか？

1. 初めて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回以上

↓

3-2. 前回来られたのはいつですか？

- a. 1～2年以内 b. 3～4年前 c. 5年以上前

4. 企画展示のテーマはいかがでしたか。

1. 非常によい 2. よい 3. ふつう 4. よくない 5. まったくよくない

5. 企画展示の資料はいかがでしたか？

1. 非常によい 2. よい 3. ふつう 4. よくない 5. まったくよくない

6. 解説文はわかりやすかったですか？

1. 非常にわかりやすかった 2. わかりやすかった 3. どちらともいえない
4. わかりにくかった 5. 非常にわかりにくかった

7. 企画展示の全体的な感想はいかがでしたか。

1. 非常に満足 2. 満足 3. どちらともいえない 4. 不満 5. 非常に不満

8. 企画展示について、ご意見・ご感想・ご要望がありましたらお書きください。

来館日： 月 日

性別： 男性 女性

年齢： 15歳以下 16歳～19歳 20代 30代 40代 50代 60代以上

ご協力ありがとうございました。

国立歴史民俗博物館

図4：国立歴史民俗博物館（国立、歴史・民俗） 企画展向け 自記式

町立歴史民俗資料館アンケート 〈 年 月 日 〉 《児童・生徒用》

◎もっともっと、みんなのための、たのしい、やくだつ資料館（しりょうかん）にするために、つぎのアンケートに教えてください。○でかこむか、数字または文字を書き入れてください。

名木小・小御門小・滑河小・高岡小・下総中（ ）年 男・女

1 これまでに資料館へ何回ぐらい行きましたか。

まだ行っていない ・ 1回 ・ 2回 ・ 3回 ・ 4回 ・ 5回 ・ 6回以上

2 資料館では、どんなものにきょうみをもって見ますか。（3つまでえらんでもよい）

土器や石器・化石（かせき）類・玉類・はにわなどの出土品・古い道具類・おもちゃ・
古い農具類・刀（かたな）・陣屋（じんや）の復元模型・古い文書・かわら造りの道具類・
みこし・七夕（たなばた）馬など・ホールでの催し物（もよおしもの）・鬼瓦（おにかわら）
・町の地図模型・その他（ ）

3 「こども資料館教室」を開いていますか、知っていますか。（知っている・知らない）

4 （知っている人に）参加したことがありますか。（ある（ ）回 ・ ない）

5 （参加した人に）何に参加しましたか。（2つ以上に参加した人はそれぞれに○）

コスモスをかく・鬼（おに）がわらづくり・拓本（たくほん）づくり・
勾玉（まがたま）づくり・紙芝居（かみしばい）づくり

6 【こども資料館教室】でこれまでおこなったもののほかに、これからやってほしいものは何ですか。（3つまで）

竹ざいく・紙ざいく・わらざいく・おりがみづくり・土器づくり・
町の歴史を見て歩く・その他（ ）

7 資料館へ望むことがありましたら書いてください。

ご協力ありがとうございました。

町立歴史民俗資料館アンケート < 年 月 日 >

◎もっともっと、みんなのための、楽しい、役立つ資料館にするために、次のアンケートにご協力ください。○で囲むか、文字を書き入れてください。《おとな用》

男・女 () 歳

1 これまでに資料館へ何回ぐらい来られましたか。

まだ行っていない ・ 1回 ・ 2回 ・ 3回 ・ 4回 ・ 5回 ・ 10回以上

2 資料館では、主にどんなものに興味や関心をもって見ますか。(5つまで)

土器や石器・化石類・玉類・埴輪など古墳の出土品・古い道具類・玩具・古い農具類・刀剣・陣屋の復元模型・古文書・瓦造りの道具類・みこし・七夕馬など・ホールでの催し物(企画展示)・鬼瓦・町の地図模型・その他()

3 資料館では「文学碑教室」「こども資料館教室」、また町教育委員会社会教育係とともに「歴史教室」を開催していますが、知っていますか。(知っている・知らない)

4 (知っている人に) 参加したことがありますか。(ある・ない)

5 (参加した人に) 何に参加しましたか。(「文学碑教室」・「歴史教室」)

6 資料館では町内の人達の美術展や収蔵資料展など各種の企画展示をしていますが、知っていますか。(知っている・知らない)

7 これまで資料館が行った展覧会で特に印象に残っているものを選んで下さい。いくつでもよいです。

(これまでに開かれた展覧会)

空を飛んだ殿様の子孫展 下総町水墨画会作品展 下総の玉作り展 鶴の会書作展
下総町写真クラブ作品展 発掘された香取の遺跡展 小・中学生書き初め展
下総町のまつり 書道教室修了者作品展(宗洲会書作展) 久保木正明先生遺作展
下総鬼瓦展 ニュージーランド報告展 町社会福祉協議会作品展 杉原笛邦先生日本画展
香取の伝統的工芸品 俳句会短歌会作品展 下総町のいたび展 印半纏(はんてん)展
路傍の石造物展①②③ 青野富夫油彩展 収蔵品展(農具) 生きがい教室切り絵展
伊能忠敬の大図展 沢田三郎油絵展 収蔵品展(着物) 町内小学校展 絵画・女性三人展
郷土史研究会の企画展 {思い出の本とおもちゃ、衣類と筆筒、いろいろな巻物、
埋もれた書画と写真、焼き物展①②、100年前の生活を偲ぶ展、七福神展}
山倉克巳遺作展

8 これから開いてほしい展覧会がありましたら書いてください。

9 資料館へ望むことや気づいたことがありましたら書いてください。

ご協力ありがとうございました。

図6：下総町立歴史民俗資料館(公立、歴史・民俗) 来館者向け(おとな用)

年 月 日

アンケート

今後の美術館活動を参考にさせていただきますので、アンケートにご協力ください。

1. 性別 男性 女性
2. 年代 10歳未満 10代 20代 30代 40代
 50代 60代 70歳以上
3. 職業 会社員 公務員 自営業 主婦 無職 その他
 JIU教職員 小学生 中学生 大学生 (JIU生・その他)
4. 住まい 東金市 山武郡 (町・村)
 千葉県 (市・郡) 県外 (都・道・府・県)
5. 来館回数 はじめて 以前にも来館した (回くらい)
6. この展覧会をどこでお知りになりましたか。
 ポスター (掲示場所:) ちらし 新聞 (紙)
 広報紙 (誌) インターネット 知人から
 ここに来て その他 ()
7. この展覧会について
 よかった ふつう つまらない
 [理由]
8. その他ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

* ご協力ありがとうございました。

月 日 No.

秋の展示「きのこワンダーランド」 アンケート

あなたのことを教えてください

1. 性別 男性 女性 2. 職業 ()
3. 年齢 (9才以下 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90才以上)
4. 住所 千葉市内 (中央区 若葉区 美浜区 稲毛区 緑区 花見川区)
千葉県内 () 市・町・村)
県外 () 都・道・府・県 () 市・町・村)
5. 来館回数 初めて 2回目 3回目 4回以上
6. 交通手段 徒歩 自転車 バス 電車 貸切りバス 自動車

企画展のことをおうかがいします

1. 企画展の開催を何で知りましたか？ (あてはまるものすべてに○)
新聞記事 () 新聞 () 雑誌記事 (雑誌名:) テレビ (番組名:)
ラジオ (番組名:) ポスター (どこで) ちらし (どこで)
インターネット (当館ホームページ 他館ホームページ メールリスト)
博物館の年間行事案内 県民だより 以前来館した時の掲示 人づて
その他 (具体的に) 博物館に来るまで知らなかった
2. 展示はおもしろかったですか？
とてもおもしろかった おもしろかった つまらなかった とてもつまらなかった
3. どんなところがおもしろかったですか？ どこがよくなかったですか？
4. 知人に紹介したいと思いませんか？ 紹介したい 紹介したくない
5. 気に入った展示物は何ですか？ 展示物の名前を教えてください。
6. きんのこのことで、初めて知ったことがありましたか？
7. 改善すべき点はありませんでしたか？ (内容のわかりやすさ・ラベルの大きさ・展示の明るさなど)
8. その他、お気づきの点、ご意見、ご希望がありましたら、どうぞ。

ご協力ありがとうございました。

受付番号 _____

千葉県立中央博物館についてのご意見、ご希望がありましたらお聞かせ下さい。
今後の博物館運営に活かしていきたいと考えています。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

ご意見・ご要望・ご質問

- ・中央博物館を、今で何回位利用しましたか。(回)
- ・中央博物館を、この1年間に何回位利用しましたか。(回)
- ・ご意見等を館内に掲示することを希望しますか。(する ・ しない)
(お名前等の個人情報は掲載されません)
- ・住所・氏名等を記入された方は、博物館からの回答を希望されますか。
(する ・ しない)

お差し支えなければ以下もご記入ください。(無記名でも結構です。)

お名前 (歳)	ご住所
	〒
お電話	メールアドレス

図9：千葉県立中央博物館（公立、歴史・自然） 来館者全般向け

流山市立博物館来館者アンケート

* あてはまる番号に○を、必要な所は記入してください。

【質問1】 あなたについておたずねします。

- 性別 1 男 2 女
- 年齢 1 小学生 2 中学生 3 高校生 4 学生
5 20代 6 30代 7 40代 8 50代
9 60代 10 70代以上
- 職業 1 会社員・店員 2 公務員・団体職員 3 自営業
4 役員 5 主婦 6 無職
7 その他 ()

【質問2】 どちらから来館されました。

- 1 市内 2 千葉県内
3 その他 (都道府県)

【質問3】 流山市立博物館の利用状況についておたずねします。(過去1年)

- 常設展示 1 1回 2 2回以上
○企画展 1 1回 2 2回以上
○第2展示室を市民が利用できることについて
1 知っている 2 知らない

【質問4】 流山市立博物館をご覧いただいた目的は。 *複数回答可

- 1 歴史に興味がある 2 専門知識を学ぶため
3 行事に参加 4 図書館に来たついで
5 出かけたついで 6 新撰組で観光に来たため
7 その他 ()

裏面にお進みください

[質問5] 流山市立博物館をごらんいただいた感想をお書きください。

[

]

[質問6] 流山市立博物館の展示についてうかがいます。

○現在の展示室についての希望は。 *複数回答可

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 文字を大きく | 2 動画や映像を取り入れる |
| 3 人形や模型を取り入れる | 4 照明を明るくした展示 |
| 5 照明をもう少し落とした展示 | 6 音声ガイドのある展示 |
| 7 その他 (|) |

○今後、企画展等の展示に取り上げてほしいテーマをお聞かせください。

[

]

○現在は入館無料ですが、有料化についてのご意見をお聞かせください。

[

]

[質問7] 流山市立博物館の展示についてうかがいます。

○参加されたことはありますか。 1 はい 2 いいえ

○1の場合の講座はなにでしたか。(

)
○今後、講座に希望するテーマをお聞かせください。

[

]

[質問8] その他ご意見、ご希望があればお書きください。

[

]

ご協力ありがとうございました。

成田羊羹資料館アンケート

本日は当館へご来館くださり誠にありがとうございます。

Qお客様は？

①男性 ②女性

Qお歳は？

①～20歳 ②21歳～39歳 ③40歳～59歳 ④60歳～

Q成田羊羹資料館をどのように知りましたか？

①新聞 ②雑誌 ③ラジオ・テレビ ④なごみの米屋の店頭で ⑤知人や友人から
⑥その他（ ）

Q今日はどちらからご来館されましたか？

①成田市内 ②成田市外の千葉県内 ③茨城県 ④東京都 ⑤神奈川県
⑥埼玉県 ⑦上記以外の関東地区 ⑧その他（ ）

Q今回でご来館は何回目ですか？

() 回目

当館の展示内容はいかがですか？ご意見ご感想をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

アンケート用紙

あてはまるものに○をつけてください。
平成 年 月 日

1. 今までに□□□作りをしたことがありますか？（今回いがい）

ない () ある ()

2. やってみておもしろかったですか

はい いいえ

3. またやってみたいと思いますか

やりたい やりたくない

4. 今回のことはどこで知りましたか

- ・前回来館した時 ・学校 ・成東町の公共施設
・他市町村の公共施設 ・友人などから ・その他 ()

5. 今までに資料館に来たことがありますか（今回いがい）

ない 1回 2回～9回 10回以上

6. その他（ご意見・ご希望）

「
」

」

性別	小学生以下	小学生	町 村 市
	中学生	高校生	
男 女	大人		

ご協力ありがとうございました

成東町歴史民俗資料館

図12：成東町歴史民俗資料館（公立、歴史・民俗） 行事参加者向け

アンケート

1. 次の質問にお答えください。(○をおつけください)

月日	月 日	性別	男性・女性
年齢	小学生・中学生・高校生・20歳以下・20歳代 30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳以上		
住所	船橋市内・県内(船橋市除く)・東京都・他県・海外		

2. 感想・ご意見をご記入ください。

アンケート用紙

当館は、今後ともよりよい博物館を目指して努力致します。そのためにも、みなさまの貴重なご意見ご感想が参考となります。どうぞ、ご協力ください。

ご自由にお書きください。		平成 年 月 日
当館を何でお知りになりましたか？		
どこから こられました？	都道 府県	性別：男性・女性
		年齢： 歳

(上) 図13：船橋市郷土資料館（公立、歴史） 来館者全般向け

(下) 図14：麻雀博物館（私立、歴史） 来館者全般向け

常設展アンケート

ご来館日 (年 月 日)

◆下の質問でご自分に当てはまるものに○を付けてください◆

1. 博物館に来たのは、今日で何回目ですか。

(1)初めて (2)2~5回目 (3)6~10回目 (4)11回以上

2. 当博物館を、どうやってお知りになりましたか。(当てはまるもの全部に○)

(1)広報「まつど」を見て (2)ポスター・チラシを見て(場所 _____) (3)新聞/雑誌を見て(誌名 _____) (4)人に聞いて
(5)インターネット (6)公園に来て (7)学校の見学で (8)来るまで知らなかった
(9)その他(_____)

3. 今日、誰と一緒に来ましたか。

(1)1人で (2)友人と (3)家族と (4)学校の団体に (5)その他(_____)

4. 今日来る時、どのような交通手段を使用しましたか。(当てはまるもの全部に○)

(1)徒歩 (2)自転車 (3)電車 (4)バス (5)自動車 (6)その他(_____)

5. お住まいはどちらですか。

(1)松戸市 (2)松戸市以外(_____ 市/町/村) (3)千葉県外(_____ 都/県)

6. 性別は (1)男 (2)女

7. 年齢は (1)0~9才 (2)10代 (3)20代 (4)30代 (5)40代
(6)50代 (7)60代 (8)70代 (9)80才以上

8. ご職業は

(1)一般 (A. 会社員 B. 自営業 C. 公務員 D. 主婦 E. その他)
(2)学生 (A. 幼稚園生 B. 小学生 C. 中学生 D. 高校生 E. 大学(院)生・専門学校生)

◆展示についてのご意見・ご感想◆

9. 観覧料について

(1)高い (2)少々高い (3)適当 (4)安い (5)無料だった (6)わからない

10. 展示について

(1)とても良い (2)良い (3)普通 (4)よくない (5)わからない

11. 印象に残った展示がありましたらお書きください

[
|
L

]]

裏に続きます!

12. 下の3つの項目について、それぞれ当てはまると思うものに○をつけてください。
また、どんな点を改善すれば、より分かりやすくなると思いますか。

展示	大変わかりやすい	わかりやすい	普通	わかりにくい
解説文	大変わかりやすい	わかりやすい	普通	わかりにくい
案内表示	大変わかりやすい	わかりやすい	普通	わかりにくい

「改善点：

「

」

◆展示室以外の施設について◆

展示会以外で利用した（または利用する予定の）施設に、○をつけてください。（当てはまるもの全部に○）

- (1)常設展示（有料） (2)ハイビジョン映像 (3)閲覧コーナー (4)ビデオコーナー
(5)プレイルーム (6)竪穴住居 (7)ミュージアムグッズコーナー (8)喫茶コーナー

◆その他ご意見・ご感想がありましたらお書きください

図15b：松戸市立博物館（公立、歴史・民俗） 来館者全般向け

たんけん
「昔のくらし探検」アンケート

来館した日 (2005年 月 日)

◆下の質問でご自分に当てはまるものに○を付けてください◆

1. 博物館に来たのは、今日で何回目ですか。

- (1)初めて (2)2~5回目 (3)6~10回目 (4)11回以上

2. この展覧会のことを、どうやって知りましたか。(当てはまるもの全部に○)

(1)広報「まつど」を見て (2)ポスター・チラシを見て(場所_____)

(3)新聞/雑誌を見て(誌名_____)

(4)人に聞いて
(5)インターネット (6)公園に来て (7)学校の授業で訪れて (8)来るまで知らなかった
(9)その他(_____)

3. 今日は、だれと一緒に来ましたか。

- (1)1人で (2)友人と (3)家族と (4)学校の団体で (5)その他(_____)

4. 今日来る時、どのような交通手段を使いましたか。(当てはまるもの全部に○)

- (1)徒歩 (2)自転車 (3)電車 (4)バス (5)自動車 (6)その他(_____)

5. お住まいはどちらですか。

- (1)松戸市 (2)松戸市以外(_____市/町/村) (3)千葉県外(_____都/県)

6. 性別は (1)男 (2)女

7. 年齢は (1)0~9才 (2)10代 (3)20代 (4)30代 (5)40代
(6)50代 (7)60代 (8)70代 (9)80才以上

8. ご職業について

(1)一般 (A. 会社員 B. 自営業 C. 公務員 D. 主婦 E. その他)

(2)学生 (A. 幼稚園生 B. 小学生 C. 中学生 D. 高校生 E. 大学(院)生・専門学校生)

◆今回の展覧会について、ご意見・ご感想をお聞かせください◆

9. 展示はいかがでしたか。

- (1)とても良い (2)良い (3)普通 (4)よくない (5)わからない

10. 今回ご覧になった展示のなかで、特に印象に残った展示コーナーはどこですか。
その理由も、あわせてお書きください。

- (1)住まう (2)食べる (3)着る (4)くらす (5)耕す (6)40年ぐらい前のくらし

「理由： _____」

裏に続きます！

11. この^{てんらん}展覧会では、主に70年前ぐらい前の農家の^{てんじ}くらしを展示しています。

- ①^{てんじ}展示を^{らん}ご覧になって、“今の生活との^{ちが}違い”はお感じになりましたか。
 (1)とても感じた (2)まあまあ感じた (3)少し感じた (4)感じなかった
 ②どのような点に今の生活との違いを感じたか、よければお書きください。

[]

展示	大変わかりやすい	わかりやすい	普通	わかりにくい
解説文	大変わかりやすい	わかりやすい	普通	わかりにくい
案内表示	大変わかりやすい	わかりやすい	普通	わかりにくい

12. 下の3つの項目について、それぞれ当てはまると思うものに○をつけてください。
 また、どんな点を改善すれば、より分かりやすくなると思いますか。

「改善点：

[]

13. 会期中、また^{てんじ}展示を^{らん}ご覧になりたいですか。

- (1)ぜひ見たい (2)機会があれば見たい (3)見たいと思わない (4)わからない

今後、どのような^{てんらん}展覧会や行事に^{さんか}参加してみたいですか。「こんなのがあったらいいな」という^{きぼう}希望もお書きください。

◆その他ご意見・ご感想がありましたらお書きください

図16b：松戸市立博物館（公立、歴史・民俗） 展覧会『昔のくらし探検』向け

アンケート 月 日

本日はご来館ありがとうございます。今後の参考にさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。当てはまる項目にチェックして下さい。（複数の場合すべて）

●性別 男性 女性

●年齢 12歳未満 12歳～19歳 20～39歳 40～59歳 60歳以上

●お住まい 茂原市内 長生郡内 千葉県内 県外（ ）

●美術館・郷土資料館に来たのは何回目ですか。
はじめて 2～3回 なんども来ている

●美術館・郷土資料館をどこで知りましたか。
偶然みつけた 標識で ホームページで 情報誌で
ガイドブックで その他
※具体的な場所・書名等が判りましたらお書き下さい。

[]

●本日は主にどの展示を目的にいらっしゃいましたか。
第1展示室 第2展示室 郷土展示室 市民ギャラリー

●展示や施設についてお気づきの点や、ご要望など、ご自由にお書きください。

[]

茂原市立美術館・郷土資料館

参考文献紹介

博物館評価や経営に関する論考・報告・それらのリストなどに関する文献の一部を参考までにご紹介します。特に最近の文献について網羅できていないことをお含み置きの上、ご活用ください。分類ごとに年代・著者名順に配列しました。

<文献リスト>

- 重盛恭一 編. 2000. 第8章 日本における来館者研究, 博物館評価 文献リスト. 所収; 滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀県博物館ネットワーク協議会 編. ワークショップ&シンポジウム: 博物館を評価する視点. p.150-172. 滋賀県立琵琶湖博物館.
- 天竺斎(下野晃義) 編. 2000. 日本国内の来館者研究(利用者調査)、博物館評価(事業評価、内部評価、批評) 研究資料・文献リスト. ミュージアム利用研究会(ミ・利・研)のウェブページ¹
- 佐々木秀彦 編. 2003. 博物館評価に関する文献. 博物館研究 38(5): 23.

<単行本・報告書>

- 総合研究開発機構 編. 1981. 文化施設の経済効果 - 国立民族学博物館をモデルとして -². 459p. 総合研究開発機構.
- R.マイルズ 編著. 中村邦紀 訳. 1986. 展示デザインの原理. 287p. 丹青社.
- 日本科学技術振興財団・丹青総合研究所. 1987. 展示評価の調査・研究: よりよき展示の創造のために: 共同研究・報告書. 282p. 日本科学技術振興財団・丹青総合研究所.
- J.フォーク・L.ディアキング 著. 高橋順一 訳. 1996. 博物館体験: 学芸員のための視点. 215p. 雄山閣.
- 滋賀県立琵琶湖博物館・滋賀県博物館ネットワーク協議会 編. 2000. ワークショップ&シンポジウム: 博物館を評価する視点. (琵琶湖博物館研究調査報告 第17号) 209p. 滋賀県立琵琶湖博物館.
- 村山皓 編. 2001. 施策としての博物館の実践的評価: 琵琶湖博物館の経済的・文化的・社会的効果の研究. 206p. 雄山閣.
- 村井良子 編著. 2002. 入門 ミュージアムの評価と改善: 行政評価や来館者調査を戦略的に活かす. 216p. ミュゼ(社名変更; アム・プロモーション).
- 「博物館構想に関する県民提言」作成委員会. 2003. ~市民と創る博物館へ6つの期待と3つの提言~ 「千葉県立博物館構想に関する県民提言」報告書³ 140p.
- NPO法人千葉まちづくりサポートセンター. 2004. ~2003年千葉県NPO活動提案募集事業成果報告会資料~ 新世紀において千葉の博物館が生み出すべき価値の検討と評価尺度づくり³. 92+146p.

<雑誌特集>

- 月刊ミュゼ 45号(2001) 特集 来館者調査について、話してみませんか?
- ミュージアム・マガジン DOME 57号(2001) 特集「博物館評価」という怪物がやってくる?
- 博物館研究 38巻5号(2003) 特集 博物館の評価
- 博物館研究 39巻7号(2004) 特集 博物館の評価(2)

¹ <http://www.asahi-net.or.jp/~mu7a-smn/miriken/evaluation/list.html> (2006年3月1日閲覧)

² これをもとに、総合研究開発機構 編. 1983. 文化経済学事始め - 文化施設の経済効果と自治体の施設づくり -. 225p. 学陽書房. が編集された。

³ 問い合わせ先: 特定非営利活動法人 千葉まちづくりサポートセンター (ポーンセンター)
〒267-0065 千葉市緑区大椎町 1188 番地 129 Fax 043-294-8607 born@jca.apc.org

<雑誌論文・報告・レポート等>

- 無記名. 1988. 特集「博物館の評価」⁴. ミュージアムデータ (4): 1-5.
- 守井典子. 1997. 博物館における評価に関する基礎的研究. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 (1): 31-41.
- 川嶋敦子. 1999. 来館者研究の歴史的諸相. 展示学 (27): 16-22.
- 佐々木享. 1999. 公立博物館における行政評価: 評価手法構築にむけて. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 (3): 13-24.
- 三木美裕. 1999. 博物館・美術館の来館者研究: アメリカの事例から. 国立民族学博物館研究報告書 24: 633-701.
- 三木美裕. 1999. 来館者研究の応用. 展示学 (27): 28-33.
- 三木美裕. 1999. アメリカでの展示の検証と評価法の応用 - 展示の検証とはお客様を知ることである -. ミュージアムデータ (44): 1-8.
- 井島真知. 2000. 博物館の評価環境を考える - 展示開発と展示評価 -. 文環研レポート⁵ (14): 1-8.
- 牛島薫. 2000. 博物館における評価に関する一考察: 経営の評価を中心として. 千葉県立現代産業科学館研究報告書 (6): 67-78.
- 中澤純治. 2000. 文化公共施設の経済評価分析 - 滋賀県立琵琶湖博物館を例として -.⁶ 政策科学 8(2): 133-148.
- 布谷知夫・芦谷美奈子. 2000. 博物館評価の考え方と事例. 博物館学雑誌 26: 37-49.
- 吉岡伸. 2000. ワークショップ「琵琶湖博物館を評価する」. 文環研レポート⁵ (14): 9-11.
- 石川(貴)・福留・高橋 2001. 博物館の評価に関するアンケート調査⁷. ミュージアムデータ (54): 8-9.
- 牛島薫・川嶋-ベルトラン敦子. 2002. 日本における博物館経営の経緯と現状 - 戦後から今日まで -. 展示学 (34): 52-63.
- 川嶋-ベルトラン 敦子. 2001. 博物館展示における文字情報の展示方法とその評価 - 調査方法論を中心として -. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 (5): 1-11.
- 吉富友恭・吉岡伸. 2002. 評価と検証を取り入れた展示開発 - 自然共生研究センターにおけるケース・スタディー -. 文環研レポート⁵ (18): 1-12.
- N. ノイマン・川嶋-ベルトラン 敦子 2002. 博物館の自己点検 - ドイツとフランスにおける評価の動向から -. 文環研レポート⁵ (19): 6-12.
- 牛島薫・椎廣行. 2004. 米国博物館経営調査に基づく日本の博物館経営の重要事項に関する考察. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 (8): 17-24.
- 竹内有理. 2004. 展示室における観客の観覧行動と記憶および理解に関する研究. 国立歴史民俗博物館研究報告 (109): 339-358.
- 福島正樹・霜田英子. 2004. 長野県内の博物館・美術館を対象としたワークショップ実施報告 長野県教育委員会・長野県博物館協議会. 博物館研究 39(7): 21-23.
- 浅田正彦・丸山聡栄. 2005. 千葉県立中央博物館生態園における来園者の利用状況調査. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 8(2): 81-87.
- 並木美砂子・竹内有理・落合啓二. 2005. 企画展示「持ち込まれたケモノたち」の展示評価 - 企画展入場者の展示利用形態と外来種問題に関する認識及び意識の変化 -. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告 8(2): 61-80.

⁴ 日本科学技術振興財団・丹青総合研究所 1987 の一部の要約・加筆と明記されている。

⁵ 文環研レポートはウェブページでも公開されている。
http://www.bunkanken.com/lib_repo/ (2006年3月1日閲覧)

⁶ ウェブページで PDF ファイルとして公開されている。(2006年3月1日閲覧)
http://www.ps.ritsumei.ac.jp/assoc/policy_science/081/08110.pdf

⁷ ウェブページで PDF ファイルとして公開されている。
<http://www.museum.or.jp/IM/report/pdf/MD54-55.pdf> (2006年3月1日閲覧)

千葉県博物館協会加盟館園一覧(平成17年度版)

※住所表記は平成17年12月1日現在のものです。

NO	館名	郵便番号	住所*	TEL	FAX	URL
1	我孫子市鳥の博物館	270-1145	我孫子市高野山234-3	04-7185-2212	04-7185-0639	http://www.bird-mus.abiko.chiba.jp
2	夷隅町郷土資料館	298-0124	夷隅郡夷隅町弥正93-1	0470-86-3708	0470-86-3708	http://www.town/sumi.chiba.jp/denen-bizitu.htm
3	市原市水と彫刻の丘	290-0554	市原市不入75-1	0436-98-1525	0436-98-1521	http://www.ichihara-kankou.or.jp/choukokoku/riyou.html
4	稲毛民間航空記念館	261-0003	千葉市美浜区高浜7-2-2	043-277-9000	043-277-9000	
5	犬吠崎マリナーパーク	288-0012	銚子市犬吠崎9575-1	0479-24-0451	0479-24-0449	
6	伊能忠敬記念館	287-0003	佐原市佐原イ1722-1	0478-54-1118	0478-54-3649	http://www.city.sawara.chiba.jp/kinenkan/kinenkan-top.htm
7	印旛村歴史民俗資料館	270-1616	印旛郡印旛村岩戸1742	0476-99-0002	0476-99-2223	http://www.vill.inba.chiba.jp
8	浦安市郷土博物館	279-0004	浦安市猫実1-2-7	047-305-4300	047-305-7744	http://kyoiku.city.urayasu.chiba.jp/hakubunukan/
9	大原幽学記念館	289-0502	旭市長部345-2	0479-68-4933	0479-68-4933	http://www.seiwajp.com/hikatu/yuigaku
10	御宿町歴史民俗資料館	299-5102	夷隅郡御宿町久保2200	0470-68-4311	0470-68-7130	http://www.town.onjuku.chiba.jp/
11	海岸美術館	295-0014	安房郡千倉町川戸柏尾550	0470-44-2611	0470-44-4439	
12	かつら民俗資料館	299-5272	勝浦市貝掛391	0470-76-3038		
13	香取神宮宝物館	287-0017	佐原市香取1697	0478-57-3211	0478-57-3214	
14	鹿野山神野寺宝物拝観所	292-1155	君津市鹿野山324-1	0439-37-2351	0439-37-2352	
15	鎌ヶ谷市郷土資料館	273-0124	鎌ヶ谷市中央1-8-31	047-445-1030	047-443-4502	http://www.city.kamagawa.chiba.jp/
16	鴨川シーワールド	296-0041	鴨川市東町1464-18	0470-92-3061	0470-93-3084	http://www.mitsuikanko.co.jp/kamogawaseaworld/
17	鴨川市郷土資料館	296-0001	鴨川市横渚1401-6	0470-93-3800	0470-93-1101	http://www.awa.or.jp/home/kamogawa-city/museumu.html
18	鴨川市民ギヤラリー	296-0001	鴨川市横渚893	0470-93-2366	0470-93-2366	http://www.awa.or.jp/home/kamogawa-city/museumu.html
19	川村記念美術館	285-8505	佐倉市坂戸631	043-498-2131	043-498-2139	http://www.dic.co.jp/museum
20	木更津市立金針塚遺物保存館	292-0044	木更津市太田2-16-1	0438-22-3676	0438-22-3676	http://www.city.kisarazu.chiba.jp/kanko/index.html
21	君津市立久留里城址史料館	292-0422	君津市久留里字内山	0439-27-3478	0439-27-3452	
22	航空科学博物館	289-1608	山武郡芝山町岩山111-3	0479-78-0557	0479-78-0560	http://www.aeromuseum.or.jp
23	国際立総植生美術館	299-4403	長生郡陸沢町上市場2416-5	0475-44-2006	0475-44-2006	
24	国立歴史民俗博物館	285-8507	佐倉市内117	043-486-0123	043-486-4211	http://www.rekihaku.ac.jp/
25	佐倉市立美術館	285-0023	佐倉市新町210	043-485-7851	043-485-9892	http://www.city.sakura.chiba.jp/kvoikiin/bijyutu/sisetu/bijyupr.htm
26	芝山町立芝山古墳・はにわ博物館	289-1619	山武郡芝山町芝山438-1	0479-77-1828	0479-77-2969	
27	下総史料館	270-2221	松戸市紙敷911-1	047-392-2466		
28	下総町立歴史民俗資料館	289-0108	香取郡下総町高岡1500	0476-96-0080	0476-96-0080	
29	城西国際大学水田美術館	283-8555	東金市求名1	0475-53-2562	0475-55-3265	
30	白浜海洋美術館	295-0102	安房郡白浜町白浜628-1	0470-38-4551		
31	市立市川考古博物館	272-0837	市川市堀之内2-26-1	047-373-2202	047-373-6352	http://www.city.ichikawa.chiba.jp/
32	市立市川自然博物館	272-0801	市川市大町284	047-339-0477	047-339-1210	http://www.city.ichikawa.chiba.jp/
33	市立市川歴史博物館	272-0837	市川市堀之内2-27-1	047-373-6351	047-373-6352	http://www.city.ichikawa.chiba.jp/
34	白井市郷土資料館	270-1422	白井市復1148-8	047-492-1124	047-492-8030	http://www.center.shiroi.chiba.jp/kyoudo/aakyoudo2.htm
35	宗吾堂宝蔵・宗吾御一代記念館	286-0004	成田市宗吾1-558	0476-27-3131	0476-27-3135	
36	袖ヶ浦市郷土博物館	299-0255	袖ヶ浦市下新田1133	0438-63-0811	0438-63-3693	
37	館山市立博物館	294-0036	館山市館山351-2	0470-23-5212	0470-23-5213	
38	千葉県南房バラダイス	294-0224	館山市藤原1495	0470-28-1511	0470-28-1520	http://www.awa.or.jp/home/nanpara/
39	千葉県路農のさと	299-2507	安房郡丸山町大井686	0470-46-8181	0470-46-8182	http://www.awa.or.jp/home/rakunou-no-sato/
40	千葉県立安房博物館	294-0036	館山市館山1564-1	0470-22-8608	0470-22-8696	http://www.chiba-muse.or.jp/AWA/
41	千葉県立大利根博物館	287-0816	佐原市佐原ハ-4500	0478-56-0101	0478-56-1456	http://www.chiba-muse.or.jp/OTONE/
42	千葉県立上総博物館	292-0044	木更津市太田2-16-2	0438-23-0011	0438-23-2230	http://www.chiba-muse.or.jp/KAZUSA/

NO	館名	住所	TEL	FAX	URL
43	千葉県立現代産業科学館	市川市曳高 1-1-3	047-379-2000	047-379-2221	http://www.chiba-muse.or.jp/SCIENCE/
44	千葉県立関宿城博物館	野田市関宿三軒家 143-4	04-7196-1400	04-7196-3737	http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO/
45	千葉県立総南博物館	夷隅郡大多喜町大多喜 481	0470-82-3007	0470-82-4959	http://www.chiba-muse.or.jp/SONAN/
46	千葉県立中央博物館	千葉市中央区青葉町 955-2	043-265-3111	043-265-2481	http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/
47	千葉県立中央博物館分館 海の博物館	勝浦市吉尾 123	0470-76-1133	0470-76-1821	http://www.chiba-muse.or.jp/umi/haku/
48	千葉県立美術館	千葉市中央区中央港 1-10-1	043-242-8311	043-241-7880	http://www.chiba-muse.or.jp/ART/
49	千葉県美術館	印旛郡栄町 竜角寺 1028	0476-95-3333	0476-95-3330	http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/
50	千葉県立加曽利貝塚博物館	千葉市中央区中央 3-10-8	043-221-2311	043-221-2316	http://www.city.chiba.jp/art
51	千葉県立郷土博物館	千葉市若葉区桜木町 163	043-231-0129	043-231-4986	http://www.city.chiba.jp/education/edu/kasori/
52	長南町郷土資料館	千葉市中央区亥鼻 1-6-1	043-222-8231	043-225-7106	http://www.city.chiba.jp/education/edu/kyodo/
53	塚本美術館	長生郡長南町長南 2127-1 長南町中央公民館内	0475-46-1194	0475-46-1194	http://www.mobara.ne.jp/~chonnan/data/bunkazai.html#siryou
54	TEPCO新エネルギパーク	佐倉市裏新町 1-4	043-486-7097	043-222-7021	
55	TEPCO地球館	富津市新富 25	0439-87-9191	0439-87-9190	http://www.tgn.or.jp/encpark/index.html
56	流山市立博物館	千葉市中央区問屋町 1-35 千葉ポートスクエア内	043-238-8711	043-238-8716	http://www.tgn.or.jp/tikyukan/index.html
57	成田山書道美術館	流山市加 1 丁目 1225-6	04-7159-3434	04-7159-9998	http://www.city.nagareyama.chiba.jp/
58	成田山霊光館	成田市成田 640	0476-24-0774	0476-23-2218	http://www.root.or.jp/nantashodo
59	成田市三里塚御牧場記念館	成田市土屋 238	0476-22-0234	0476-22-0242	
60	成田半農資料館	成田市三里塚御料 1-34	0476-35-0442	0476-35-0442	http://www.city.narita.jp/vility/be_siframe.html
61	成東町歴史民俗資料館	成田市上町 500	0476-22-2266	0476-22-1661	
62	野田市歴史博物館	山武郡成東町殿台 392	0475-82-2842	0475-82-2842	http://www.town.naruto.chiba.jp/
63	野田市立中央小学校教育史料館	野田市野田 370	04-7124-6851	04-7124-6866	
64	菱川師宣記念館	野田市野田 611	04-7122-2116	04-7122-2117	
65	福富児童記念江畑美術館	安房郡鋸南町吉浜 516	0470-55-4061	0470-55-1585	http://www.ava.or.jp/home/kyonan-machi/
66	財団法人 藤崎故土史料館	旭市蛇園字出清水 2516	0479-55-2918	0479-55-2110	
67	ふなばしアンデルセン公園子ども美術館	富里市久能 583-4	0476-92-1258		
68	船橋市郷土資料館	船橋市金堀町 525	047-457-6661	047-457-7584	http://www.city.funabashi.chiba.jp/sankan/ander.htm
69	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	船橋市薬台 4-25-19	047-465-9680	047-467-1399	http://www.city.funabashi.chiba.jp/benri/bunka.htm#kyodo
70	平成美術館	船橋市海神 4-27-2	047-495-1325	047-435-7450	
71	房総浮世絵美術館	船橋市前原東 1-1-1	047-473-1210	047-476-2720	
72	麻雀博物館	長生郡長柄町大庭 172	0475-35-2001	0475-35-2001	http://museum.takeshobo.co.jp
73	松戸市立博物館	夷隅郡岬町中原 1-2	0470-87-8886	0470-86-8886	http://www.intership.ne.jp/~kyouiku/m_muse/
74	松山庭園美術館	松戸市千駄堀 671	047-384-8181	047-384-8194	http://www.adfj.com/konokki
75	勝沢町立歴史民俗資料館	八日市場市松山 630	0479-79-0091	0479-73-6716	http://www.adfj.com/konokki
76	METAL ART MUSEUM HIKARINOTANI	長生郡睦沢町上之郷 1654-1	0475-44-0290	0475-44-0213	http://www.town.mitsuzawa.chiba.jp/shisetu/index.html
77	茂原市立美術館・郷土資料館	印旛郡印旛村吉高 2465	0476-98-3151	0476-98-3156	http://www.jade.dti.ne.jp/~man/index.html
78	八千代市立郷土博物館	茂原市高師 1345-1	0475-26-2131	0475-26-2132	http://www.city.mobara.chiba.jp/
79	夢紫美術館	八千代市村上 1170-2	047-484-9011	047-482-9041	http://island.qqq.or.jp/hp/vachivo-city/sisctu/rekisi.html
80	吉澤野球史料保存館	香取郡小見川町小見川 581	0478-83-1089	0478-83-1092	http://www.tamiva.co.jp/
81	歴史の里 芝山ミュージアム	船橋市本中山 1-6-10	047-334-3675	047-334-8808	
82	和洋女子大学文化資料館	山武郡芝山町芝山 298	0479-77-0004	0479-77-1393	http://www.evam.ne.jp/niouson/haniwa.html
83	下総屋画廊 (賛助会員)	市川市国府台 2-3-1	047-371-2494	047-371-2494	http://www.wayo.ac.jp
84	近藤正 (賛助会員)	千葉市中央区新田町 2-19 山口ビル 5 F	043-246-8581		
	千葉県博物館協会事務局	東金市福俣 470	0475-55-0543		
		佐倉市坂戸 631 川村記念美術館内	043-498-2131	043-498-2139	http://www.dic.co.jp/museum

MUSEUM ちば 第37号

2006年3月31日

<http://www.chiba-web.com/chibahaku/>

発行所 千葉県博物館協会

〒285-8505 佐倉市坂戸631

川村記念美術館内

TEL 043(498)2131

編集者 千葉県博物館協会調査研究委員会

印刷所 〒260-0001 千葉市中央区都町1-10-6

株式会社 正文社

TEL 043(233)2235
